

鹿児島県自然災害略年表(旱魃のほか蝗害や疫病・飢饉・火災等を含まず江戸時代まで)

番号	元号	旧暦年月日	西暦年月日	災 害 種 別			被災地	被害の概要
				風水害	地震津波	火山		
1	懿徳天皇の御宇		BC520～477			開聞岳湧出		震動・風・雷
2	景行天皇20年10月3日		90年11月			開聞岳湧出		—
3	慶雲 3年7月28日		706年9月9日	大風			九州諸国	穀物・樹木
4	和銅 元年		708年			桜島湧出		—
5	和銅 2年		709年			桜島湧出		—
6	霊亀 2年		716年			桜島湧出		—
7	養老 元年		717年			桜島湧出		—
8	養老 2年		718年			桜島湧出		—
9	天平 14年10月23日		742年11月24日		地震	？	大隅国	地震
10	天平宝字 3年8月29日		759年9月24日	大風			九州諸国	建物倒壊
11	天平宝字 8年12月		765年1月			桜島		人や家屋の埋没
12	天平神護 2年6月3日		766年7月14日	大風		隼人沖海底説も		三島生成
13	天平神護 2年6月5日		766年7月16日			三州		農作物被害
14	宝亀 元年1月21日		770年2月21日	大風		桜島／隼人沖		地震
15	宝亀 6年11月7日		775年12月4日	大風雨		九州諸国		建物多数倒壊
16	延暦 7年3月4日		788年4月14日			日向薩摩		農作物被害
17	弘仁 4年10月		813年12月	大風		霧島「曾乃峯」		噴出物堆積
18	天安 2年5月1日		858年6月15日	大風雨		薩摩大隅		(農作物被害)
19	貞観 16年3月4日～		874年3月25日～			九州諸国		建物、農作物
20	元慶 8年8月1日		884年8月25日			開聞岳		噴出物～人も
21	仁和 元年7月12日		885年8月25日			開聞岳		(爆発音)
22	仁和 元年8月11日		885年9月23日			開聞岳		噴出物降下
23	天慶(?) 8年(?)		945年(?)			霧島山		噴出物堆積
24	万寿 元年7月		1024年8月	雨水			大隅	噴火
25	天永 3年2月3日		1112年3月2日			霧島・西峯		電・霞
26	永久 元年2月3日		1113年2月20日			霧島山		神社寺院焼失
27	仁安 2年		1167年			霧島山		神社焼失
28	嘉応 元年7月		1170年8月	大風雨		霧島山	大根占	寺院焼失
29	寿永 2年12月17日		1184年1月31日			霧島山		洪水
30	寛喜 2年8月8日		1230年9月16日	大風		霧島山		噴火
31	文暦 元年12月28日		1235年1月18日			九州諸国		建物倒壊
32	文暦 9【?】年12月		九は元の誤りか?			霧島・西峯		神社寺院焼失等
33	正安 3年11月21日		1301年12月21日	大風		霧島山		神社寺院焼失
34	至徳 2年6月24日		1385年7月31日	大風雨			甑島	波浪?
35	応永 14年7月28日		1407年8月31日	大風			田代	住家流失
36	応仁 2年		1468年			桜島		死者多数
37	文明 3年9月12日		1471年10月25日			桜島		噴火
38	文明 5年4月		1473年5月			桜島		噴出物堆積
39	文明 7年8月15日		1475年9月15日			桜島		噴火
40	文明 8年5月12日		1476年6月3日			桜島		噴火、島湧出
41	文明 8年9月12日		1476年9月29日		前震	桜島		噴火
42	文明 10年		1478年			桜島		大爆発～大被害
43	文明 18年8月3,15日		1486年8, 9月	大風			田代	噴出物堆積
44	永正 8年8月18日		1511年9月10日	大風大水			田代	飢饉で餓死多数
45	大永 4年11月23日		1524年12月18日		大地震	霧島山		飢饉
46	天文 13年4月, 14年3月		1544年5月, 1545年4月		大地震			地震, 山丘崩落
		13年4月22日	1544年5月13日		大地震		田代	大地震
47	天文 16年6月18日		1547年7月5日	大風雨・洪水			南薩	崖崩壊
48	天文 20年8月15日		1551年9月15日	大風			田代	橋梁流失
49	天文 23年～弘治元年		1554～1555年			霧島・西峯		家屋倒壊・穀類断絶
50	永禄 9年4月7日		1566年4月26日			霧島		噴火
51	永禄 9年閏8月9日		1566年9月22日			霧島		噴火
52	永禄 9年9月9日		1566年10月21日			霧島・西峯		噴火で300人死亡
53	天正 2年1月		1574年1～2月			霧島		多数焼死
54	天正 4～6年		1576～78年			霧島・西峯		噴火・地震

55	天正	13年	1585年			霧島山	地震・噴火
56	天正	15年4月17日	1587年5月24日			霧島	噴火・地震
57	天正	16年3月12日	1588年4月7日			霧島山	噴火・大地震
58	文禄	元年1月14日	1592年2月26日	地震		大隅	大石大木転倒
59	文禄	5年閏7月9日	1596年9月2日	大地震		薩摩	地震
60	慶長	3～5年	1598～1600年			霧島・西峯	噴火
61	慶長	9年12月16日	1605年2月3日		大(津)浪	薩摩・大隅	建物・舟・人的被害
62	慶長	13年5月14日	1608年6月26日	洪水		伊作	寺院に土砂流入
63	慶長	18～19年	1613～14年			霧島	噴火
64	元和	元～2年	1615～16年			霧島	噴火
65	元和	2年5月～	1616年6月～	洪水		田代	諸作物被害
66	元和	3年8月～	1617年9月～	大風洪水		田代	諸作物被害
67	元和	3～4年	1617～18年			霧島・西峯	噴火
68	元和	3年10月20日	1617年12月18日			霧島山	噴火
69	元和	6年	1620年			霧島山	村落田地等被害
70	元和	6年	1620年	大風		田代	諸作物被害/50人?
71	元和	6年7月2日	1620年7月31日	洪水		指宿	神社浸水(流失?)
72	寛永	5年9月29日	1628年10月26日			霧島	神社寺院焼失
73	寛永	7年8月6日	1630年9月12日	大風		田代	寺院家屋倒壊ほか
74	寛永	12年7月25日	1635年9月6日	大風		田代	寺院破損
75	寛永	13年8月11日	1636年9月10日	大風		田代	寺院破損
76	寛永	14～15年	1637～38年			霧島	噴火
77	寛永	19年3月7日	1642年4月6日			桜島	噴火
78	慶安	3年	1650年	大雨		鹿児島城	城大破、封内損毛
79	慶安	3年9月	1650年9～10月	洪水		諸国	洪水
	慶安	5年8月	1652年9月	大風		田代	大木・家屋破損
		5年8月9～10日	1652年9月11～12日			加治木	家屋330余転倒
		5年8月9日	1652年9月11日			川辺	寺院殿堂破壊
		5年秋	1652年9月			帖佐	神社拝殿等破壊
80	明暦	3年6月	1657年7月	大雨			損害多大
81	明暦	3年9月12日	1657年9月19日		地震		地震
82	万治	2年1月～ 寛文元	1659年3月～ 1662年2月			霧島・西峯	噴火
83	寛文	2年8月～ 4年	1662年9月～ 1664年4月			霧島・西峯	噴火
84	寛文	2年9月19日	1662年10月30日		地震	日向	地盤沈降・建物倒壊
85	寛文	2年10月	1662年11月		地震(津波?)	大隅	大地震～海埋立
		2年10月1日	1662年11月11日		地震	大隅	山体崩落埋立?
86	寛文	3年7月26日	1663年8月28日	大風雨		九州西部	建物倒壊、船損傷
87	寛文	9年8月11日	1669年9月6日	大風洪水		田代	諸作物被害・飢饉
		9年夏から秋		大風		種子島	諸作物被害
88	延宝	2年8月17日	1674年9月16日	大風		田代	風水害
89	延宝	5年	1677年			霧島山	噴火
90	延宝	5年6月	1677年7月	洪水		大口	洪水
91	延宝	6年正月9日	1678年3月1日			霧島山	噴火
92	延宝	6年正月9日	1678年3月1日			桜島	噴火
93	延宝	9年4月末～5月	1681年6月15日～7月14日	土砂災害		種子島	土砂災害(人・田)
94	天和	2年5月19日	1682年6月24日	洪水		川辺	破堤・浸水
95	天和	3年10月	1683年12月		地震	大隅	地震～海埋立
96	貞享	5年8月18日	1688年9月12日	大風高潮		種子島	家屋倒壊・流失等
97	元禄	3年6月16日	1690年7月21日			霧島山	噴出物堆積
98	元禄	4年5月	1691年6月	大雨		鹿児島	洪水
99	元禄	6年5月	1693年6月	大雨		鹿児島	洪水
100	元禄	6年6月24日	1693年7月26日	大風		種子島	漁船沈没
101	元禄	9年9月8日	1696年10月3日	大風		種子島	家屋倒壊・作物被害
102	元禄	14年8月11日	1701年9月13日	大風		種子島	飢饉
103	元禄	15年10月27日	1702年12月15日	大風		種子島	破船10艘余
104	宝永	2年12月	1706年1月			桜島	噴火
105	宝永	2年12月15日	1706年1月29日			霧島山上	建物焼失
106	宝永	4年9月13日	1707年10月8日	大風		種子島	田損壊
107	宝永	4年10月	1707年10月		地震	鹿児島	鹿児島城破損

	宝永	4年10月4日	1707年10月28日		津波		種子島北部	人家十軒流失
108	宝永	6年5月9日	1709年6月16日	大風			種子島	牛馬斃死、家屋破損
109	宝永	6年6月1日	1709年7月7日	土砂			始良市上名	崖崩れ～神社流失
				洪水			加治木	橋流失
110	正徳	元年5月27日	1711年7月12日	水害			鹿児島	水害～橋梁損壊
111	正徳	元年7月22日	1711年9月4日	大風			種子島	死者も
112	正徳	2年	1712年	洪水			吉松	取水堰・取水口
113	正徳	3年7月12日	1713年9月1日	大風・洪水			川辺	田、倒家、破堤
114	正徳	4年	1714年				諏訪之瀬島	記録なし
		前後か不明確	1710～22年頃か				諏訪之瀬島	不詳
115	正徳	6年2月18日	1716年3月1日				霧島山	噴火・地震等
116	正徳	6年閏2月18日	1716年4月10日				霧島山	噴火
117	正徳	6年3月16日	1716年5月7日				霧島山	噴火
118	享保	元年8月11日	1716年9月26日				霧島山	噴出物堆積
119	享保	元年9月26日	1716年11月9日				霧島山	火砕流～死傷者等
120	享保	元年10月21～23日	1716年12月3～5日				霧島山	噴火
121	享保	元年12月26日	1717年2月7日				霧島山・新燃	噴出物堆積
		〃～29日	〃～10日				霧島山・新燃	〃～人・牛馬 死
122	享保	元年12月28日	1717年2月9日				霧島山	噴出物堆積
		〃～29日	〃～10日				霧島山	建物焼失
		〃～正月3日	〃～13日				霧島山	建物焼失
123	享保	2年正月3日	1717年2月13日				霧島山・新燃	噴出物堆積
		2年正月3日～	1717年2月13日～				霧島山・新燃	建物、人・牛馬
124	享保	2年正月6日～	1717年2月16日～				霧島	噴火
125	享保	2年正月7日	1717年2月17日				霧島・西峯	噴出物堆積
126	享保	2年8月2日	1717年9月6日				霧島	降灰
127	享保	2年8月15日	1717年9月19日				霧島	噴出物堆積
128	享保	2年9月27日	1717年10月31日				霧島	噴石、爆音
129	享保	3年2月27日	1718年3月28日				霧島	噴出物堆積
130	享保	3年12月27日	1719年2月15日				霧島山	噴出物堆積
131	享保	11年	1726年	大雨			鹿児島	土手・掘岸損壊
132	享保	13年6月3日	1728年7月9日		地震		喜入	土砂崩れ
133	享保	14年8月3日	1729年8月26日	大風			種子島ほか	大風
134	享保	14年8月19日	1729年9月11日	大風			種子島ほか	大風
135	元文	3年8月5日	1738年9月18日	洪水			種子島	土砂災害
136	寛保	元年7月21日	1741年8月31日	大風			封内	建物倒壊等
				大風洪水			種子島	田・家・牛馬損害
137	寛保	2年3月2日	1742年4月6日			桜島		噴火
138	延享	元年8月10日	1744年9月16日	大風雨			日向	人的・経済被害大
				大風			鹿児島	雨も(程度不明)
139	延享	3年2月25日	1746年4月15日	洪水			種子島	田畑損壊
140	延享	3年8月23日	1746年10月7日	大風高潮			種子島	田・家・牛馬・船損害
141	寛延	元年8月	1748年9月	(高潮)	津波		串木野	海辺の神社流失
142	寛延	元年9月2日	1748年9月24日	(高潮)	海笑(嘯)		市来	港近く地頭館浸水
				大風・高潮			市来・串木野	家屋流失、死者多数
				暴風雨・大波浪			坊津久志	防波堤崩壊・住家倒壊40余
143	寛延	元年10月13日	1748年11月3日	竜巻			鹿児島	家屋巻上げ
144	寛延	2年	1749年	大風水害				大風水害
145	寛延	2年7月2日	1749年8月14日	洪水			種子島	田損壊
146	寛延	2年8月	1749年9月			桜島		噴火
147	宝暦	元年2月12日	1751年3月9日	洪水			種子島	田損壊
148	宝暦	2年4月15日	1752年5月28日	洪水			種子島	田損壊
149	宝暦	2年8月9日	1752年9月16日	大風洪水			薩摩国	大風水害
150	宝暦	3年5月17日	1753年6月18日	大風			種子島	家屋倒壊・破損
151	宝暦	3年6月18日	1753年7月18日	大風			薩摩国	大風
152	宝暦	3年6月29日	1753年7月29日	大水			薩摩国	水害
153	宝暦	5年7月13日	1755年8月20日	大風			種子島	田畑・船・家屋損壊
154	宝暦	5年8月24日	1755年9月29日	大風			種子島	家屋倒壊
							加治木	大風

155	宝暦	6年	1756年			桜島	噴火
156	宝暦	6年8月	1756年8月			桜島	(温泉涌出)
157	宝暦	7年3月7～8日	1757年4月24～25日	大雨		宮之城 加治木	破堤で麦田 網掛橋損傷
158	宝暦	8年7月19日	1758年8月22日	大風		山川ほか 種子島 加治木 鹿児島 九州	(家屋?)破損 (家屋?)破損 供養塔破損 地震 大風
159	宝暦	10年1月19日	1760年3月6日	地震		諏訪之瀬島	住民島外避難
160	宝暦	12年7月9日以前	1762年8月28日以前	大風		種子島	田破損
161	宝暦	13年3月	1763年4～5月	洪水		徳之島	田
162	明和	元年3～4月	1764年4～5月	洪水		鹿児島	(家屋?)破損
163	明和	元年6月26日	1764年7月24日	洪水		桜島	島に洪水
164	明和	元年8月11日	1764年9月6日	大風(竜巻?)		桜島	地震
165	明和	3年4月12日	1766年5月20日	洪水		桜島	地震
166	明和	3年4月28日	1766年6月5日		地震	桜島	地震
167	明和	3年6月21日	1766年7月27日		地震	桜島	地震
168	明和	5年1月26日	1768年3月14日			霧島・硫黄山	川の水質悪化
169	明和	6年8月1日	1769年8月31日	大風		日向	田等に被害
170	明和	8年7月～9年	1771年8月～1772年			霧島・西峯	噴出物降下・堆積
171	明和	9年	1772年			霧島	噴出物堆積
172	安永	3年7月14日	1774年8月20日	大風洪水		種子島	田損壊、家屋転倒
173	安永	3年9月1日	1774年10月5日	大風		種子島	貨物船等破船
174	安永	6年夏秋	1777年夏秋	大風		徳之島	台風数回
175	安永	7年秋	1778年秋	大風		諸外城	農作物等被害大
176	安永	7年7月9日	1778年8月1日	大風		種子島	家屋転倒
177	安永	7年8月7日	1778年9月27日	(高潮) 津波		沖永良部島	海水遡上浸水
	安永	7年8月7・8日	1778年9月27/28日	大風		奄美大島	倉庫倒壊、船流失
178	安永	8年9月29日～	1779年11月7日～		前震	桜島	ブリニ式噴火
179	安永	8年10月1日～	1779年11月8日～		前震	桜島	死者2百人程度
180	安永	8年10月14日～	1779年11月22日～			桜島沖	北東沖島涌出
181	安永	9年4月8日～	1780年5月11日～			桜島沖	津波
182	安永	9年6月	1780年7月			桜島	(被害報告)
183	安永	9年8月11日	1780年9月10日		浪	桜島沖	海底噴火津波
184	安永	9年10月4日～	1780年10月31日～		大浪	桜島沖	海水遡上浸水
185	安永	～9年11月3日	～1780年11月28日		大波	桜島沖	海水遡上浸水
186	安永	10年3月18日	1781年4月11日		津浪	桜島沖	水死・不明数人
187	天明	元年4月8日	1781年5月1日			桜島(沖)	焼死(十)数人
188	天明	元年7月2日	1781年8月21日	大風		桜島(沖)	噴火
189	天明	元年7月27日	1781年9月15日	大風洪水		三州	大風
190	天明	元年8月	1781年9月	大風		種子島 奄美大島	田・家屋・牛馬・船 家屋2百軒余倒壊
191	天明	元年10月4日	1781年11月19日			桜島	噴火
192	天明	元年12月5日	1782年1月18日			桜島沖	海底噴火
193	天明	2年	1782年	風水害		封内一統	凶作
194	天明	2年7月15日 ～16日	1782年8月23日 ～24日	大風雨		種子島 甌島	田・家屋・牛馬 田畑
195	天明	2年	1782年			桜島	噴火
196	天明	3年8月7日	1783年9月3日			桜島	降灰
197	天明	4年6月25日、7月30日	1784年8月10日、9月14日	大風洪水		三州	家屋損壊414軒等
198	天明	5年10月19日	1785年11月20日			桜島	降灰
199	天明	6年	1786年	水害風害			田畑損害多、死傷者も
200	天明	6年6月、8月28日	1786年6～7月、9月	洪水、大風		三州	死者約2百人等
201	天明	6年8月28日	1786年9月20日	大風		種子島 離島除く藩内	樹木・稲 死・不明164人等
202	寛政	2年6月18日～	1790年7月29日～			桜島	農作物被害大
203	寛政	3年8月14日	1791年9月11日			桜島	降灰
204	寛政	4年8月26日	1792年10月11日			桜島	噴火
205	寛政	5年8月14日	1793年9月18日	大風		奄美大島沖	船遭難
206	寛政	6年	1794年			桜島	降灰

207	寛政	9年	1797年			桜島		唐芋ほか不作
208	寛政	11年2月22日	1799年3月27日			桜島		降灰～麦被害
209	寛政	12年11月9日	1800年12月24日	大風			徳之島	破船, 溺死
210	文化	元年3月20/21日	1804年4月29/30日	大雨			種子島	田
211	文化	元年5月19日	1804年6月26日	大雨			種子島	田
212	文化	3年7月18日	1806年8月31日	大風			種子島	家屋
213	文化	7年正月18日	1810年2月21日	? 黄砂?		桜島?	川辺	降灰?
214	文化	7年7月26日	1810年8月25日	大風高波			徳之島	住家40軒余流失
215	文化	8年4月4日	1811年5月25日	洪水			種子島	田
216	文化	9年7月11日	1812年8月17日	大風			種子島	稲
217	文化	10年	1813年			諏訪之瀬島	瀬島	噴火～移住
218	文化	10年5月7日	1813年6月5日		津波?		坊泊?	人家・漁小屋流失
219	文化	11年5月	1814年7月	大風波			徳之島	家屋損壊, 死者8人等
220	文化	11年7月10日	1814年8月24日	大風			種子島	家屋, 稲, 馬
221	文化	12年7月4日	1815年8月8日	大風洪水			種子島	田
222	文化	14年4月27日	1817年6月11日	洪水			種子島	田破損
223	文化	15年4・6月	1818年5月・7月	大風			徳之島	破船
224	文政	4年7月30日	1821年8月27日	大風			種子島	稲
225	文政	4年12月20日	1822年1月12日			霧島山		川の硫黄汚染
226	文政	6年	1823年	洪水			大島	田畑破損
227	文政	7年12月3日	1825年1月21日	大風			種子島	土砂災害
228	文政	10年11月3日	1827年12月20日	旋風			種子島	火災。漁船損壊
229	文政	11年8月9日	1828年9月17日	旋風			種子島	家屋倒壊ほか
				大暴風雨			長島	大暴風(雨)
230	文政	12年5月13日	1829年6月14日	洪水			種子島	田損壊
231	文政	13年4月26日	1830年6月16日	大風洪水			肝属	杉数本倒壊
	文政	13年4月27日	1830年6月17日	大風大雨			種子島	田損壊
232	文政	13年5月2日	1830年6月22日	洪水			種子島	田損壊
233	文政	13年7月8日	1830年8月25日	大風洪水			肝属	破船で死者8人
234	文政	13年7月11日	1830年8月28日	大風			大島	船漂流ほか
235	文政	13年7月26日	1830年9月12日	大風高波			徳之島	人家流失破損
236	文政	13年9月6日	1830年10月22日	大雨			種子島	田損壊
237	天保	2年5月5日	1831年6月14日	大雨土砂崩れ			種子島	田損壊
238	天保	3年3月20日	1832年4月20日			霧島山		噴火
239	天保	3年9月10日	1832年10月3日	大風波			徳之島	田損壊
	天保	3年9月11日	1832年10月4日	大風			奄美大島	農作物被害
							種子島	田, 船, 家
240	天保	4年5月9日	1833年6月26日	洪水			鹿児島	橋梁流失, 住家浸水
							都城	堤防損壊
241	天保	4年5月14日	1833年7月1日	大雨			種子島	田損壊
242	天保	4年5月28日	1833年7月15日	洪水			鹿児島	浸水
							都城	冠水・浸水
243	天保	4年8月20日	1833年10月3日	大雨			種子島	田
244	天保	5年3月10日	1834年4月18日	洪水			種子島	田
245	天保	5年5月21日	1834年6月27日	大雨			種子島	田
246	天保	6年5月14日	1835年6月9日	大風			種子島	倒木多数。人圧死も
247	天保	6年閏7月21日	1835年9月13日	大風			鹿児島	樹木, 家屋倒壊
				洪水			川辺	家屋浸水
248	天保	7年7月7日	1836年8月18日	大風雨			種子島	諸作物被害
				強風雨洪水			肝属	道路冠水
249	天保	9年閏4月17日	1838年6月9日	洪水			串木野	堤防・堰・田など破損
							鹿児島	床下浸水
250	天保	11年3月22日	1840年4月24日	竜巻			霧島	家屋等倒壊, 死者
251	天保	11年7月17日	1840年8月14日	大風			種子島	田
252	天保	11年8月2日	1840年8月28日	洪水			肝属ほか	破堤, 床下浸水
							鹿児島	洪水
		～4日					都城	洪水, 稲
253	天保	11年9月8日	1840年10月3日	洪水			肝属	破堤, 死者8人
254	天保	12年4月3日	1841年5月23日			口永良部島		村落に被害

255	天保	12年5月10日	1841年6月28日	洪水		鹿児島	浸水
	天保	12年5月11日	1841年6月29日	洪水		種子島	田破損
256	天保	12年5月18日	1841年7月6日	洪水		鹿児島	浸水
				大風		重富	家屋破損
				洪水		都城	河川破堤
257	天保	12年6月15日	1841年8月1日		口永良部島		村落に被害～移住
258	天保	12年7月10日	1841年8月26日	洪水		鹿児島	床上浸水, 橋脚流失
259	天保	13年5月17日	1842年6月25日	洪水		鹿児島	床上? 浸水
						重富	田損壊
260	天保	14年5月18日	1843年6月15日	洪水		種子島	田損壊
261	天保	14年夏	1843年夏	洪水		伊佐・大口	堤防・堰堤崩壊
262	弘化	2年5月19日	1845年6月23日	大風高波		徳之島	破船
	弘化	2年5月20日	1845年6月24日	洪水		都城	洪水
						鹿児島	浸水
263	弘化	～2年6月3日～	～1845年7月7日～	大風		徳之島	農作物被害
	弘化	2年6月3日	1845年7月7日	洪水		鹿児島	浸水, 橋流失
264	弘化	3年7月17日	1846年9月7日	大風		種子島	家屋倒壊ほか
						肝属	杉数本倒壊
265	弘化	4年6月24日	1847年8月4日	大風雨		種子島	作物損害, 家屋損壊
						鹿児島	家屋損壊
						川辺	家屋樹木倒壊
						重富ほか	家屋損壊
266	嘉永	元年8月9日	1848年9月18日	大風		徳之島	家屋倒壊, 農作物被害
267	嘉永	3年6月12日	1850年7月20日	大風高波		徳之島	船乗揚げ
268	嘉永	3年8月7日	1850年9月12日	大風		種子島	建物多数
						枕崎沖?	船舶遭難死者14
						肝属	倒家, 倒木, 難船
						加治木	諸所破損, 死者
						重富	稲作
269	嘉永	4年9月22日	1851年10月16日	洪水		徳之島	田畑, 4人流失
270	嘉永	4年9月27日	1851年10月21日	大風		徳之島	家屋。座礁破船
271	嘉永	4年10月1日	1851年10月25日	洪水		徳之島	洪水
272	嘉永	5年9月7日	1852年10月19日	大風		徳之島	農作物, 人家被害
273	嘉永	5年9月11日	1852年10月23日	洪水		種子島	稲
274	嘉永	7年11月5日	1854年12月24日		地震	肝属ほか	家屋倒壊等
						加治木	家屋破損
275	安政	2年5月15日	1855年6月28日	洪水		鹿児島	床上? 浸水
276	安政	2年5月18日	1855年6月31日	大雨洪水		種子島	田損壊, 土砂災害
277	安政	2年7月13日	1855年8月25日	大風雨		種子島	田
278	安政	2年12月15日	1856年1月22日	大風		種子島	商船破船
279	安政	4年4月25日	1857年5月18日	大風高波		徳之島	座礁破船
280	安政	4年7月29日	1857年9月17日	大旋風		種子島	船, 建物, 作物
281	安政	6年5月11日	1859年6月11日	大雨		種子島	橋, 田
282	万延	元年	1860年		桜島		噴火
283	文久	3年7月19日	1863年9月1日	土石流		国分	田, 死者・牛馬
284	元治	2年閏5月2日	1865年6月24日	大雨洪水		谷山	洪水
285	元治	2年6月4日	1865年7月26日	大雨洪水		谷山	田
286	慶応	2年5月14日	1866年6月26日	大雨洪水		谷山	田
287	慶応	2年5月25日	1866年7月7日	大雨洪水		川辺	洪水, 溺死1
288	慶応	2年6月29日	1866年8月9日	大雨風		種子島	外国船破船
289	慶応	3年5月23日	1867年6月25日	大雨洪水土砂崩れ		蒲生	生埋め数人, 田畑
				大雨洪水土砂崩れ		加治木	溺死5人, 田, 家屋

鹿児島県自然災害履歴（旱魃のほか蝗害や疫病・飢饉・火災等を含まない。江戸時代以前）

番号	元号・旧暦年月日 西暦年月日 災害種別・場所 依拠史料 記事 ※引用している史料集や解説
1	懿徳天皇の御宇 BC520～477 開聞岳 鹿児島藩史官記録 懿徳天皇御宇薩摩國開聞山湧出 ※『鹿児島県災異誌』（以下『県災異誌』）。 『鹿児島縣火山志』（以下『県火山志』）によれば神代皇帝記から。
2	景行天皇20年10月3日 90年11月 開聞岳 開聞神社縁起 景行天皇二十年庚寅十月三日 一夜ノ内ニ口出ス / 景行天皇二十年庚寅十月三日夜国土震動風雷鼓波而開聞山忽湧出 ※『県火山志』（前段は本文、後段は年表）『頼娃郷舊跡帳』では「仁王十二代景行天皇二十年十月三日一夜之間ニ湧出ス」
3	慶雲3年7月28日 706年9月9日 大風・九州諸国 續日本紀 太宰府言（マフス）。所部九國三嶋亢旱大風。拔樹ヲ損スト稼ヲ。遣シテ使ヲ巡省。回ツテ免ス被ルコト災ヲ尤甚キ者ノ調役ヲ。
4	和銅元年 708年 桜島湧出 鹿児島圖幅説明書 隅州向島湧出、 ※『県災異誌』。同旨を聞くと桜島燃記の伊地知季虔。『三國名勝圖會』（以下『名勝圖會』）は「又一舊記に云、和銅元年、一夜に涌出す、祭神月讀尊とあり、」
5	和銅2年 709年 桜島湧出 西藩野史 傳日向島ハ元明帝和銅二己酉年地中ヨリ出ツ
6	靈龜2年 716年 桜島湧出 鹿児島藩史官記録 元正天皇靈龜二年白山権現頭座四年大隅國向島湧出。 ※『県災異誌』
7	養老元年 717年 桜島湧出 三國名勝圖會 一舊記に云、養老元年丁巳、大隅向島涌出す、…皇帝紀、及び年代記の説は、養老中の涌出とす、本藩古來の人、多く此説に従へり、然れども養老中、涌出の説は、續日本紀の正史にも載せざれば、亦確證に取難きに似たり、如何となれば、國分の小島の如き、細小の島なりといへども、正史に其涌出を載せたるに、桜島の秀拔雄特なるは、猶更正史に記すべきを、其載記なきを以て是を觀れば、豈疑ふべきに非ず耶、故に桜島は荒古開闢の初めより、既に涌出せしならん、 ※白尾國柱も同旨と注記
8	養老2年 718年 桜島湧出 皇帝紀、桜島池田氏藏年代記 皇帝紀云、第四十四代 元正帝靈龜四年、大隅國向島涌出、續日本紀、此事を載せず、靈龜三年に、養老と改元あり、然れば四年は、實に養老二年に當れり、桜島の士人池田新兵衛所藏の年代記には、養老二年、向島涌出とあり、此説は 皇帝紀に所謂靈龜四年是に當る、 ※『名勝圖會』
9	天平14年10月23日 742年11月24日 地震・大隅国 續日本紀 十一月…壬子（十一）。大隅ノ國司言ス。従り今月【先月十月】廿三日未ノ時。至マテ廿八日ニ。空中ニ有テ聲。如太鼓ノ。野雉相驚キ。地大ニ震動セリト。丙寅（廿五）。遣シテ使ヲ於大隅ノ國ニ検問シ。并ニ請ヒ聞シム神ノ命ヲ。
10	天平宝字3年8月29日 759年9月24日 大風・九州諸国 續日本紀 太宰府言フス。去ル八月廿九日南風大ニ吹テ。壊ルト官舎及ヒ百姓ノ。廬舎ヲ。
11	天平宝字8年12月 765年1月 桜島ノ隼人沖 續日本紀 是ノ月。西方ニ有リ聲。似テ雷ニ非ス雷ニ。時ニ當テ大隅・薩摩兩國之堺ニ。烟

	雲晦冥シテ。奔電去來ス。七日之後乃天晴ル。於テ甕島信尔村之海ニ。沙石自聚テ。化シテ成ル三ノ嶋ト。炎氣露見スルコト。有テ如ナルコト冶鑄之爲シワサノ。形勢相連望メハ似タリ四阿之屋ニ。爲メニ嶋ノ被ル埋メ者。民家六十二區。口八十餘人。 ※『島津國史』、『西藩野史』や『日本災異志』等は桜島の涌出としたが、白尾國柱や『名勝圖會』、更に『日本噴火志』の大森博士は現在の霧島市隼人沖説
12	天平神護2年6月3日 766年7月14日 大風・三州 續日本紀 日向。大隅。薩摩ノ三國ニ大風フキテ。桑麻損盡ス。詔シテ勿シム収ルコト柵戸ノ調庸ヲ。
13	天平神護2年6月5日 766年7月16日 隼人沖海底 續日本紀 大隅ノ國神造新嶋。震動シテ不息マ以テ故ヲ民多クハ流亡ス仍テ加フ賑恤ヲ。
14	宝龜元年正月21日 770年2月21日 大風・九州諸国 續日本紀 太宰ノ管内大ニ風フキテ。壊ル官舎并ニ百姓ノ廬舎一千卅餘口ヲ賑シ給フ被ル損セ百姓ニ。
15	宝龜6年11月7日 775年12月4日 大風雨・日向薩摩 續日本紀 太宰府言ス。日向薩摩ノ兩國風雨シテ。桑麻損盡スト。詔シテ不問ハ寺神之戸ヲ。並ニ免ス今年ノ調庸ヲ。
16	延暦7年3月4日 788年4月14日 霧島「曾乃峯」 續日本紀 太宰府言ス。去ヌル三月四日戌ノ時。當ッテ大隅ノ國贈於【曾乃峯】ノ郡曾乃峯ノ上ニ。火災大ニサカンニシテ熾。響如シ雷ノ動スルカ。及ンデ亥ノ時ニ。火光稍止ミテ唯見ル黒烟ノミヲ。然シテ後雨ラシテ砂ヲ。峯ノ下五六里。沙石委積スルコト可(バカリ)二尺。其ノ色黒シ焉。
17	弘仁4年10月 813年12月 大風・薩摩大隅 鹿兒島県史年表 薩摩大隅等五國大風、租調を免除す
18	天安2年5月1日 858年6月15日 大風雨・九州諸国 文徳実録 大宰府言、去五月一日、大風暴雨、官舎悉破、青苗朽失、九國二嶋盡被損傷
19	貞観16年3月4日～ 874年3月25日～ 開聞岳 三代実録 太宰府言。去三月四日夜。雷霆發響。通霄震動。遲明天氣陰濛。晝暗如夜。于時雨沙。色如聚墨。終日不止。積地之厚。或處五寸。或處一寸餘。比及昏暮。沙變成雨。禾稼得之皆致枯損。河水混砂。更爲瀟濁。魚鼈死者無數。人民有得食死魚者。或死或病。… 秋七月丁亥朔。二日戊子。地震。太宰府言。薩摩國從四位上開聞神山頂。有火自曉。煙薰滿天。灰沙如雨。震動之聲聞百餘里。近社在百姓震恐失精。
20	元慶8年8月1日 884年8月25日 開聞岳 鹿兒島県災異誌 ※他書にない『三代実録』の「八月己丑朔辰時天西南有聲如雷一度」が開聞岳のこととする理由は不明
21	仁和元年7月12日 885年8月25日 開聞岳 三代実録 太宰府上言。…七月…。薩摩國言。同月十二日夜。晦冥。衆星不見。砂石如雨。檢之故實。潁娃郡正四位下開聞明神發怒之時。有如此事。國宰潔齋幣奉。雨砂乃止。
22	仁和元年8月11日 885年9月23日 開聞岳 三代実録 八月十一日。震聲如雷。燒炎甚熾。雨砂滿地。晝而猶夜。十二日自辰至子雷電。砂降未止。砂石積地。或處一尺已上。或處五六寸已上。田野埋瘞。人民騷動。

23	天慶8年 945年 霧島山 鹿兒島縣噴火書類（福島嚴之助編纂） 襲山考曰今案縁起及ビ僧性空傳平家物語等天慶八年性空…抽丹悃欲登絶頂誦法華經限以七日受之神勅而居五日闔山震動猛火大發不可暫止。 ※『日本噴火志』。『大日本地震史料』も同年にかけているが、伊地知季安の『襲山考』には「僧ノ性空…天慶八年乙巳十八歳ニシテ髪ヲ叡山ニ削ル。應和三年癸亥卅六歳ニシテ家ヲ出デ深山ヲ人跡至ラズ鳥音聞エザルノ奥ニ尋ネ、日州霧島ニ適キ廬ヲ結ンデ之ニ居リ、…、絶頂ニ昇リ益々法華ヲ誦シテ神勅ヲ受クルヲ祈ラント欲シ、限ルニ七日ヲ以テシ、而シテ五日ニ當ル。山震動シ猛火雷發シテ暫クモ止マルアラズ。」とあり、「[古代・中世]地震・噴火史料データベース」によれば『書写山円教寺旧記』に符合するようでもあり、霧島山での修行や噴火との遭遇は応和三年【九六三年】のこととする方が妥当であると思われる。（『性空上人伝記遺続集』によれば三六歳・天慶八年＝西暦九四五年か）
24	万寿元年7月 1024年8月 雨水・大隅 鹿兒島県史年表 大隅雨水【？水？】
25	天永3年2月3日 1112年3月2日 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…此峯所謂火常峯にて、古來火を發すること頻繁なり、其事傳紀、及び當邑西御在所霧島神社、及び小林霧島山中央神社等の、舊記に見えたり、續紀 桓武帝、延暦七年、…三月四日、…、國史に見えたるは、蓋是を始とす、其社記に所見は、 鳥羽帝、天永三年、壬辰、二月三日より起れり、／霧島山中央六所權現宮…、天永三年壬辰二月三日、霧島山上に火發し、火常峯、神社寺院焼亡す
-1	霧島山上 錫杖院縁起 霧島山上大いに燃え神社焼す。 ※『県災異誌』
26	永久元年2月3日 1113年2月20日 霧島山 日向郷土史年表 霧島山噴火す。霧島峯神社焼く。 ※『県災異誌』。上との混淆の可能性あるか
27	仁安2年 1167年 霧島山 三國名勝圖會 霧島山大曼荼羅院西生寺…梅北村益貫にあり、…霧島山の東麓佐野に寺を建立して、…、其後住持尋譽上人が時、一夜神童來り告て曰、三日を歴て霧島山に火起り、寺院回祿に罹るべし、速に三里の外に退けと、於是…、南方今の地梅北に移る、果して霧島山に火起り、殿堂焼崩す、實に仁安二年なり、
28	嘉応元年7月 1170年8月 大風雨・大根占 三國名勝圖會 諏方上下大明神社…大風雨にて洪水横流し、社壇海上に流れる
29	寿永2年12月17日 1184年1月31日 霧島山 日本噴火志 霧島山噴火。（ミルン氏調査） ※『日本震災凶饉攷』では「是歳大隅霧島山噴火（吉記、地震考）」
30	寛喜2年8月8日 1230年9月16日 大風・九州諸国 藤崎社文書 暴風俄吹靈木尽倒之剽神殿以下見屋併以顛 ※『県災異誌』
31	文暦元年12月28日 1235年1月18日 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、…其後 四條帝文暦元年、十二月廿八日の發火、甚盛にして、祠宇皆焼盡すとあり、／ 西御在所霧島六所權現社…文暦元年甲午十二月廿八日山上又火を發して神社・寺院及び什寶・文書等悉く焼失す／ 霧島山中央六所權現宮…、文暦元年甲午十二月廿八日、火常峰に火大に發して、神社等又焼亡し、砂石降埋む、先是矛峰の邊、水泉湧出せしに、是に至て水泉甚乏しく、山上の居住を得ず、／ 狹野大權現社…社記曰文暦元年甲午十二月廿八日、霧島山大火、當社、並に別當寺、焼亡に及ぶ、

	／ 霧島山佛華林寺神徳院…、文暦元年甲午十二月廿八日、霧島山上火起りて、神社寺宇悉く焼亡し、／ 霧島山華林寺東光坊錫杖院…天永三年壬辰二月三日・文暦元年甲午十二月廿八日、霧島山火起りて、寺廟共に焼亡し、當寺廢する ※白尾國柱の『覺藩名勝考』は社傳に「文暦元年十二月廿八日の炎より大なるハなく」と見えるとする
-1	霧島山 霧島山佛華林寺狹野世譜 従り鉾之峯火坑震シ裂焰石熱砂◎【瘞か】没ス伽藍ヲ
32	文暦9【元?】年12月 1243年? 霧島山 覺藩名勝考 狹野社傳曰、文暦九年【文暦は2年までしかなく「九」は「元」の誤りか?】十二月、霧島山大に火を發して、神庙寺院咸丙丁の災に値ふ、此時神代の靈寶傳記宣命等盡く焼失せり、
33	正安3年11月21日 1301年12月21日 大風・甌島 北条九代記 異国船若干着、薩摩国甌島、大風吹、賊舟逐電記 ※『県災異誌』
34	至徳2年6月24日 1385年 大風雨・田代 田代之寶光寺古年代記 夜向大風大雨依河南郷白河邊在家多悉押落
35	応永14年7月28日 1407年8月31日 大風・田代 寶光寺古年代記 七月大風同廿八日人多死
36	応仁2年 1468年 桜島 福昌寺舊記、鹿兒島圖幅説明書 向島の山上に火を發し云々 ※『櫻島大正噴火誌』。白尾國柱の覺藩名勝考は「櫻島山上に火を發し、」とする
37	文明3年9月12日 1471年11月3日 桜島 櫻島池田氏藏年代記 向島黒神村燃出ル、人民多死、 ※舊記雜録
-1	桜島 福昌寺旧記 文明三年九月九日十二日、桜島山上二火を發し、黒神邨の上愈熾にして、 ※県火山志
-2	桜島 三國名勝圖會 福昌寺年代記、並に諸舊記に、文明三年九月十二日、向島黒神村神火燃、／ 當島の内燃崎といへる地、諸所にあり、一は黒上村にあり、文明三年九月十二日、此村の上火を發し、大石を飛し、砂を雨らす、其焼石堆積して岩丘となる、土人呼て燃崎といふ、
-3	桜島 重豪公御譜 其東南厓號稱燃崎、沙石皆黒、蓋當時(ソノトキ)所焼之跡也、 ※『舊記雜録』
38	文明5年4月 1473年5月 桜島 地學協會報告 大隅櫻島嶽噴火 ※『日本災異志』
39	文明7年8月15日 1475年9月24日 桜島 櫻島池田氏藏年代記 向嶋之内野尻村燃出ル、 ※『舊記雜録』
-1	桜島 福昌寺旧記 野尻村火を發し、 ※『県火山志』
-2	桜島（沖も?） 三國名勝圖會 福昌寺年代記、並に諸舊記に、文明…七年八月十五日、向島野尻村神火燃、／ 【燃崎の】一は野尻村湯之村の界にあり、文明七年八月十五日、野尻村火を發し、沙石を雨したる所にて、燃崎◎【(ガウ)「檄」の木偏が石偏】々たり、／ 烏島 地頭館の南、七町許り、赤水村の南、三町許の海中にあり、文明七年八月十五日、野尻村火を發す、島人傳へいふ是時涌出せしといふ、今は雜木繁茂す、土俗に唯松樹の生ずる事を忌むといへり、今に一松樹の生ずる

	なし、烏鴉多く集り栖む、因て名を得るとかや、周匝半里許あり、人居なし、 沖小島 地頭館の南、一里二町許、湯之村の前にあり、横山に屬す、大さ 烏島に倍す、出水あり、文明七年八月、野尻村火を發せし時、烏島と一時に涌 出せしといふ、是安永中、新島の涌出せし類なるべし、或は云文明七年以前、 櫻島發火の時涌出せしと、今松樹多し、
40	文明8年5月12日 1476年6月12日 桜島 西藩野史 隅州向島或ハ櫻嶋ト名ツク、火アリ烟煙藹藹シテ灰砂飛ンテ隣國ニ降ル、
-1	桜島 日本災異志 大隅國大隅郡櫻島嶽噴火シ岩石破裂シテ人畜多ク死亡シ數日ノ間降灰アリテ 數里ノ外隴畝ヲ埋メ谿壑填。所在往往。成白砂堆。 ※『鹿兒島名勝考』と『西 藩野史』からとするが9月12日の記事と混淆(五と九の混同)か
41	文明8年9月12日 1476年10月8日 前震・桜島 島津國史 櫻島地震五日。十二日。發火。石裂岸崩。壓死人畜ヲ。而其東西面。有地踊躍 出ル于海中ニ。廣サ二里所。與島合シテ爲一。又四旁數十里間。雨灰數日。 埋隴畝填谿壑。所在往往。成白砂堆。
-1	桜島 福昌寺旧記 又大に燃上る。人馬死傷不可勝記。近國に到るまで沙灰を雨すこと五日。 ※ 『県火山志』
-2	桜島 玉龍山續年代記 向島神火ス 飛火燒人畜舎屋不知數沙灰降近國 大地震 山ノ西面地涌ク 周匝二里許。 ※『県火山志』
-3	前震・桜島 三國名勝圖會 福昌寺年代記、並に諸舊記に、文明…八年九月十二日、向島大に燃出す、此 五日以前より、大地震す、是に至て岳上燒崩れ、沙灰近國迄大に雨ること七日 許なり、其十九日に及んでは、未刻より眞の暗夜の如し、當島の西南地涌出し て、本島に連る、其周廻二里許なるべし、是今の燎崎の事なりと云、又沖小島・ 烏島、涌出の事なりと云ふ、沖小島・烏島の涌出とすれば、其周匝二里許の 義、符合せず、然れば當初は、二島相接して、本島に連り、其後地沈み、二島 と分るも知るべからず、安永中、新島の涌出して、亦其沈める者ある如き歟、 燎崎・沖小島・烏島・新島、並に下に見ゆ、炎火沙石の爲に居舎埋没し、人畜 死亡せしこと其數をしらず、
-4	桜島 重豪公御譜 有文明八年櫻島發火事、…蓋土中有硫磺氣、故有時而發火也、然自天平寶 字八年至于是年千有餘年、而其間火發者二、可謂非常之災也已、 ※『舊記 雜録』
42	文明10年 1478年 桜島 地學協會報告 櫻島噴火し灰を雨らし福山の原野四里變じて砂漠となる ※『県災異誌』。『日 本震災凶饑攷』も同旨
43	文明18年8月3, 15日 1486年8～9月 大風・田代 寶光寺古年代記 八月三日大風同十五日大風餓死國中飢饉人民多死
44	永正8年8月18日 1511年9月10日 大風大水・田代 寶光寺古年代記 大風大水キタン
45	大永4年11月23日 1524年12月18日 大地震・霧島山 玉龍山續年代記 夜大地震山丘崩 ※『日本噴火志』

46	天文13年4月、14年3月 1544年5月、1545年4月 大地震 年代記 甲辰天文十三年 四月廿二日、大地震、 乙巳天文十四年 此年三月、大地震、時之内三度、 ※『舊記雜録』
-1	天文13年4月22日 1544年5月13日 大地震・田代 寶光寺古年代記 夜大地震岸崩
47	天文16年6月18日 1547年7月5日 大風雨～洪水・南薩？ 年代記 六月十八日、大風雨洪水、阿多・田布施ノ間ノ大橋落、閏七月廿一日、大風 雨、同廿八日、申ノ尅ヨリ酉ノ末マテ大風、寺社少々吹摧、 ※『舊記雜録』
48	天文20年8月15日 1551年9月15日 大風・田代 寶光寺古年代記 夜入大風明日一日諸家尽ク吹崩五コク断絶
49	天文23年～弘治元年 1554～1555年 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、…此後久しく熄て 後奈良帝、天文二十三年よ り、弘治元年に至りて、燃ゆ、
50	永祿9年4月7日 1566年4月26日 霧島 日向飢肥松井蛙助年代記 ※『県災異誌』は文書名を挙げるが原文不詳。『県火山志』によれば「霧島山 炎上ス」
51	永祿9年閏8月9日 1566年9月22日 霧島 神祇全書 庄内の一向宗信者300人が霧島詣りをし噴火に会い全部死す。 ※『県災異 誌』
52	永祿9年9月9日 1566年10月21日 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、…又 正親町帝、永祿九年、九月九日、又火を 發して、人多く焚死す、
-1	霧島・西峯 島津國史 霧島發火延焼。人多焚死。(據湯地嘉左衛門家藏文書。 霧島嶽跨日隅二州。 東屬高原郷。西屬曾於郡。)
53	天正2年1月 1574年1～2月 霧島 玉龍山續年代記 霧島神火天地震動ス。 ※『日本噴火志』
54	天正4～6年 1576～78年 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、…天正四年より、同六年に至て、又燃ゆ
55	天正13年 1585年 霧島山 地學協會報告 是歳大隅霧島山震動噴火 ※『日本災異志』。『日本噴火志』は「一説二天正十 三年十月七日ヨリ大地震年ヲ逾ユトアリ」とし、『県火山志』は『日向飢肥松井蛙 助年代記』から「大地震年ヲ逾ユ」とする
56	天正15年4月17日 1587年5月24日 霧島 鹿兒島縣噴火書類（福島 嚴之助編纂） 霧島ノ神火震動シ黒煙ノ上ニ白雲翹キ一日二三度巍々敷ク立ツ。 ※『日本噴 火志』
57	天正16年3月12日 1588年4月7日 霧島山 鹿兒島縣噴火書類（福 島嚴之助編纂） 霧島山神火ヲ發シ申酉ノ間大地震。 ※『日本噴火志』
58	文祿元年正月14日 1592年2月26日 地震・大隅 寶光寺古年代記 大石大木タヲル々ホトノ地震スル也同十月十六日ニモ地震スルナリ
59	文祿5年閏7月9日 1596年9月2日 大地震・薩摩 樺山紹劔自記 薩廣ハ大地震也、京都ハ十二日之夜也、諸屋形町屋などは不及申、金銀を芥

	はめたる御殿崩て、數百人打殺畢 ※『舊記雜錄』
60	慶長3～5年 1598～1600年 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、… 後陽成帝、慶長三年より、五年に至り、又燃ゆ
61	慶長9年12月16日 1605年2月3日 大(津)浪・薩摩大隅 樺山權左衛門尉久高譜中義久書状 東目より西目之海濱大浪よせきたり、屋之事者不及申、人も多々うち取候、誠不思議之災難二候、 ※『舊記雜錄』
-1	橋(口)市郎右衛門所持之古日記 十二月十五日之夜戌亥之時也、其時坊之津・([泊津脱力])久志・秋目・はかたか浦・大泊・辺津賀など舟過分二損シ、人も損シ候由之事 ※『群書合輯』
62	慶長13年5月14日 1608年6月26日 洪水・伊作 三國名勝圖會 佛母山多寶寺…洪水して、寺山崩れ、寺屋埋り、文書舊記悉く失ひ、來由委しからず、
63	慶長18～19年 1613～14年 霧島 霧島神宮旧記 慶長18年より翌年に至り又燃ゆ。 ※『県災異誌』。白尾國柱の『甕藩名勝考』も同旨記述
64	元和元～2年 1615～16年 霧島 霧島神宮旧記 元和元年より翌年に至り又燃ゆ。 ※『県災異誌』
65	元和2年5月～ 1616年6月～ 洪水・田代 寶光寺古年代記 五月ヨリ百日ノ大雨洪水七度出ル諸色ノ作モ惡シ物事ノ種子斷絶スル也
66	元和3年8月～ 1617年9月～ 大風洪水・田代 寶光寺古年代記 八月二度大風洪水北尾蠶口之島井戸ニ水及ブ也
67	元和3～4年 1617～18年 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、… 後水尾帝元和三年より、翌年に至て、又燃ゆ
68	元和3年10月20日 1617年12月18日 霧島山 日向國史 霧島山噴火す。
69	元和6年 1620年 霧島山 日向國史 霧島山噴火し、近村被害多し。故に檢して田地位を改定す。
70	元和6年 1620年 大風・田代 寶光寺古年代記 度々大風諸色ノ種子斷ルノ小根占蒲田原大崩レ人人五十人死ス
71	元和6年7月2日 1620年7月31日 洪水・指宿 神社調 縁起・旧記・高御目錄・名寄等、元和六年庚申七月二日之洪水ニ流失仕候、申伝迄ニ而委細由緒無御座候、
72	寛永5年9月29日 1628年10月26日 霧島 日本地震資料(中央気象台編纂) 霧島山噴火し社寺宝物焼す。 ※『県災異誌』
73	寛永7年8月6日 1630年9月12日 大風・田代 寶光寺古年代記 夜中ヨリ……ノ大風萬子相違ス崇忠岩松院兩寺ニ家モ無クコロブ也在所家亦草木無残コロブ也尤モ田モ皆々損スル也
74	寛永12年7月25日 1635年9月6日 大風・田代 寶光寺古年代記 大風ニ大庫理【×裡】損ス
75	寛永13年8月11日 1636年9月10日 大風・田代 寶光寺古年代記 大風客殿破損ス衆寮三御四方廊下皆損候大門者存慶代造立ス

76	寛永14～15年 1637～38年 霧島 寛藩名勝考 炎…寛永十四年丁丑より翌年に至る、※『県災異誌』が『名勝圖會』からとする「寛永14年より翌年に至り又燃ゆ。」という記述は同書で確認できなかった
77	寛永19年3月7日 1642年4月6日 桜島 三國名勝圖會 福昌寺年代記、並に諸舊記に、…寛永十九年三月七日晚、向島神火燃云云、見えたり、
78	慶安3年 1650年 大雨・鹿児島城 鹿児島県史年表 是夏大雨により鹿児島城大破す。風水および虫害のため封内損毛多し
-1	慶安3年9月 1650年9～10月 洪水・諸国 年代實録 清ノ順治七年庚寅九月諸國洪水
79	慶安5年8月 1652年9月 大風・田代 寶光寺古年代記 大風大木家皆破損ス
-1	慶安5年8月9～10日 1652年9月11～12日 大風・加治木 隅陽記 九日晚九時ヨリ十日四ツ時迄大風、衆中・町迄家大小三百三拾余ころび候、
-2	慶安5年8月9日 1652年9月11日 大風・川辺 神社調 承応元年八月九日大風二殿堂破壊
-3	慶安5年秋 1652年秋 大風・帖佐 神社調 承応元年秋天中風災破神殿壊拝殿
80	明暦3年6月 1657年7月 大雨 鹿児島県史年表 大雨水害、損毛多し
81	明暦3年9月12日 1657年9月19日 地震 玉龍山續年代記 大口、羽月ノ堺二幡ノ様ニ立ツ物アリ、一里ニシテ見之 九月十二日夜、大地震
82	万治2年正月～寛文元年 1659年3月～1662年 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、… 後西院帝、萬治二年、正月より、寛文元年に至て、又燃ゆ、※白尾國柱の『寛藩名勝考』は「至寛文元年十二月、」(1662年2月)とする
83	寛文2年8月～4年3月 1662年9月～1664年4月 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、…寛文二年より 靈元帝、同四年に至て、又燃ゆ、※白尾國柱の『寛藩名勝考』は「自同【寛文】二年八月發至同四年三月、」とする
84	寛文2年9月19日 1662年10月30日 地震・日向 續日本王代一覽 嶋津但馬守力領所日向國佐土原大地震城中石垣崩レ侍屋敷百姓家等八百餘宇破裂ス ※『日向國史』等に「地陥テ海トナルコト周圍七里三十五町田畑八千五百石余」等と詳説
-1	地震津波・大隅 日本災異志、日本震災凶謹攷 大隅も亦た地大に震ひ、海嘯起り山崩れ地裂く、陸地の海となる數十町人畜多く死亡す、(續皇年代略記、續日本王代一覽、日本野史、玉露叢)
85	寛文2年10月 1662年11月 地震(津波?)・大隅 玉露叢 同年同月【前後の項が寛文二年十月】、大隅國大地震海陸地となると云ふ。
-1	大隅 三國名勝圖會 和漢合運云、寛文二年、十月、大隅大地震、海成陸 ※白尾國柱の『寛藩名勝考』は寛文二年八月からの霧島の噴火の項に「正に之を云ならん」とする

-2	寛文2年10月1日 1662年11月11日 地震・大隅 續史愚抄 大隅大地震。山崩埋海。(本朝年代記、年代略記)
86	寛文3年7月26日 1663年8月28日 大風雨・九州西部 徳川實紀 (厳有院殿御實紀) 三時ほどが間。九州大風雨。薩肥ことさらはげしく。長崎にては人家傾倒し。唐 商の舟も損ぜしよし注進あり。(日記、公儀日記)
87	寛文9年8月11日 1669年9月6日 大風洪水・田代 寶光寺古年代記 大風洪水耕作盡損ス薩隅日三ヶ國キキン 大風ニ客殿上◎【薙の下に月】損候
-1	夏から秋 大風・種子島 種子嶋家家譜 自夏至秋二大風破田畑許多由
88	延宝2年8月17日 1674年9月16日 大風・田代 寶光寺古年代記 大風耕作悉損亡也
89	延宝5年 1677年 霧島山 鹿兒島縣噴火書類(福島嚴之助編纂) 霧島山神火起。 ※『日本噴火志』
90	延宝5年6月 1677年7月 洪水・大口 鹿兒島県史年表 大口に洪水あり
91	延宝6年正月9日 1678年3月1日 霧島山 鹿兒島縣噴火書類(福 島嚴之助編纂) 霧島山神火起。 ※『日本噴火志』。『日本災異志』にはない
92	延宝6年正月9日 1678年3月1日 桜島 地學協會報告 大隅櫻島山噴火 ※『日本災異志』
93	延宝9年4月末～5月末 1681年6月15日～7月14日 土砂災害・種 子島 種子嶋家家譜 日夜甚雨荃永村雪子ノ峰崩可八十間峯下人家八軒埋没男女四人壓死田地五 段九畦廿七歩永損事聞寛府
94	天和2年5月19日 1682年6月24日 洪水・川辺 次渡日帳か 五月十二日曇天十三日より十八日迄引續雨天十九日朝四ツ時より大洪水とな り六十年以來の大水にて川原町の衆残らず皆一様に水上り、右につき錦の袋 の土手打切川原田下り砂上げ、くみ迫下り水洗ひ其外木牟禮の土手打切は抜 【? 祓?】古川下り打通候、(平山田(たん)圃(ぼ)一帯砂原と化した) ※『川邊 村郷土誌』『川辺町郷土誌』
95	天和3年10月 1683年12月 地震・大隅 日本災異志 大隅国地震, 海爲陸 ※『信越地震記』からとする。前ページの83・84寛文2 年9・10月の各書に記述が似る
96	貞享5年8月18日 1688年9月12日 大風高潮・種子島 種子嶋家家譜 終日大風潮水大溢七八十年來未曾有也海邊人家盡漂流凡倒レ家八百四十九 斃牛馬百十七疋破船大小廿二艘失五穀七百四十九斛餘壞田畠許多
97	元禄3年6月16日 1690年7月21日 霧島山 島津國史 霧島山燃。雨灰數日。(據大山喜右衛門覺書) ※『県災異誌』が『日本震災凶 饑攷』からとする「霧島山噴火, 降灰數日に及ぶ。」という記述は『鹿兒島県史』 年表にあり, 日本震災凶饑攷や『日本災異志』等でない
98	元禄4年5月 1691年6月 大雨・鹿兒島 鹿兒島県史年表 鹿兒島大雨洪水あり

99	元禄6年5月 1693年6月 大雨・鹿児島 鹿児島県史年表 鹿児島大雨洪水あり、粥を施行す
100	元禄6年6月24日 1693年7月26日 大風・種子島 種子嶋家家譜 夜大風至翌朝辰刻止此夜池田浦漁夫六人及し還し自二馬毛島一遇二大風一舟沈淪有四郎助者以し善二水練一上二于佐多立目一其餘不知死生也
101	元禄9年9月8日 1696年10月3日 大風・種子島 種子嶋家家譜 夜半ヨリ至九日朝大風一島倒屋不可舉計田園損失穀千百二十俵餘
102	元禄14年8月11日 1701年9月13日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風島中飢饉
103	元禄15年10月27日 1702年12月15日 大風・種子島 種子嶋家家譜 夜半ヨリ至黎明大風浪前浦破船十餘艘
104	宝永2年12月 1706年1月 桜島 地學協會報告 大隅桜島山噴火 ※『日本災異志』
105	宝永2年12月15日 1706年1月29日 霧島山上 鹿児島縣噴火書類 (福島嚴之助編纂) 山上二火ヲ發シテ神社(六所權現社)堂塔寺家皆焦土トナル。 ※『日本噴火志』
106	宝永4年9月13日 1707年10月8日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風田地多損壊
107	宝永4年10月 1707年10月 地震・鹿児島 鹿児島県史年表 地震、海嘯あり、鹿児島城破損す ※『県災異誌』は『日本震災凶饉攷』からと するが同書では確認できない
-1	宝永4年10月4日 1707年10月28日 津波・種子島北部 種子嶋家家譜 地震潮水大ニ溢現和村庄司浦人家十軒流失
108	宝永6年5月9日 1709年6月16日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風牛馬斃者千百零二破家百零三事達寛府
109	宝永6年6月1日 1709年7月7日 土砂・始良市上名 三國名勝圖會 黒島大明神廟…水湧山崩て、神廟流失し其時舊記も亦失へり、
-1	洪水・加治木 隅陽記 大洪水、網懸橋落る、
110	正徳元年5月27日 1711年7月12日 水害・鹿児島 西藩野史 寛府大ニ水アリ屋ヲ流シ人ヲ瀧ス街路舟ヲ通ス水去ラサルコト一晝夜人皆屋 極【×根】ニ上ル粥ヲ舟ニ儲テ戸毎ニ賜テ饑ヲ救フ
111	正徳元年7月22日 1711年9月4日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風、死男一人倒家七百七十一軒斃馬四十五疋也聞事官府
112	正徳2年 1712年 洪水・吉松 加久藤道本江被召直候節夫立願書留 帳(写) 洪水ニ【?ニ?】川相直リ向江村井手口御用相立不申候
113	正徳3年7月12日 1713年9月1日 大風洪水・川辺 次渡日帳か 七月十二日より十三日迄の風害は高八千五百石餘の内千七百三十石位荒 れ、倒家十一軒、破損堤二ツ、破損井手三ツ、死馬一頭なり ※『川邊村郷土 誌』
114	正徳4年 1714年 諏訪之瀬島 西藩野史 ○薩州諏訪瀬島焼ル

-1	※前後 空順日記 一、諏訪の瀬七年の大燃病人皆々相果て四拾里の間魚も痛み申し候、風下は一夜に灰の降ること五六尺風吹けば皆海に吹き込み申し候、祈念頼に付祈念申し候へばとまりたると申し来り候、
115	正徳6年2月18日 1716年3月1日 霧島山 霧島山佛華林寺狹野世譜 雷鳴震動シ黒烟忽チ満テ転ス火坑ヲ両部之池
-1	霧島山 日本噴火志 ※『名勝圖會』からとする「夜霧島山ノ内小林曾於郡境笈掛嶽ノ北金剛界胎藏界兩部池ノ邊新燃ニヶ所燃出ル依之小林邊震動高原ノ内花堂松八重川水増魚死流。」は同書で確認できず、『日本災異志』等にもない
116	正徳6年閏2月18日 1716年4月10日 霧島山 古今山之口記録 霧島山大燃 ※『南九州文化』
117	正徳6年3月16日 1716年5月7日 霧島山 古今山之口記録 霧嶋嶽釈迦之嶽ト云西之方ニ當リ火穴始大燃 ※『南九州文化』
-1	霧島山 霧島山佛華林寺狹野世譜 兩部之兩池堤塘裂壊為一也。
118	享保元年8月11日 1716年9月26日 霧島山 古今山之口記録 霧嶋山大燃ニ而當地えも壺歩ニ砂灰壺升三合降る ※『南九州文化』
-1	霧島山 三州年代記 霧嶋山大燃朝七ッ半より五ッ迄硫磺(石偏に黄)淤泥ニ而高原狹野原蒲牟田櫟原壺尺餘降埋候
119	享保元年9月26日 1716年11月9日 霧島山 西藩野史 霧島山火アリ
-1	霧島山 吉貴公御譜 日州霧島山頭兩部池邊新火井沸騰、雨ニ火石劫灰一、火石所^レ降東霧島神社狹野權現社神徳院及院中門前瀬戸尾權現社及別當寺、高原・小林^(小林)郷等之民屋、山樹悉為ニ灰燼一田畠灰埋矣、
-2	霧島山 島津國史 霧島山發火。焚東霧島社。狹野權現社。瀬戸尾權現社。神徳院。及高原。高崎。小林等處。民屋山木。福山市民十一人宿於瀬戸尾。死者五人。(據浄國公舊譜。萬代記。狹野權現。在高原郷。瀬戸尾權現。在小林郷。)
-3	霧島山 三州年代記 霧嶋山大燃世人神火と申候此夜瀬戸尾權現へ福山之者六人參詣内四人石ニ當リ打殺一人ハ神子行衛不相知殘壺人ハ少々疵負候得共乍漸在所へ歸花堂噯所へ勤居候飛脚番大石ニ當打殺昼七ッ時分六時比迄同夜九ッ時分より七ッ時比迄大神火高原在光坊社頭并米蔵材木蔵門前惣様焼失小池より門前之間大石式尺程埋狹野神徳院社頭より坊門前四五ヶ所焼失狹野權現上^{フキ}口(蕙の下に月)替有之遷宮之筈に而為御名代嶋津藤次郎殿被差越候得共早々帰宅高原地頭左近允与太夫殿初地入ニ而候得共是茂早々帰宅東御在所御神躰八十一代之現住覺焉法印守出し高原鎮守大明神社内ニ久敷御安置花堂町口(祓ネへん)川不殘焼拂高原衆中百姓方々江立除之庄内山之口書留^{クラ}ニ此時降埋候砂石例見ルニ地壺歩ニ砂石共ニ六斗四升降候と云々鹿児島迄茂闇シ同廿七日ニ茂神火終日ニ時々幾度といふ事なし
-4	霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、… 中御門帝、享保元年、九月二十六日、又燃

	ゆ、此時、高原狹野社・神徳院・霧島東御在所社・錫杖院、小林霧島中央宮・瀬戸尾寺、及び高原・高崎・小林等、民屋山林、皆焚たり、一書に東霧島社も、此火に焼たりとす、東霧島社は、高城にあり、…凡享保元年より、是歳【明和九年】に至り、大に火て屢熾なり、焼石焰となりて、虚空より隕ち、沙石糠を簸るが如く、灰燼雨て晝も夜に異ならず、行人簍を戴て、其壓傷を遮り防ぎけり、數里の間、田疇を埋没し、草木焦枯る、往古の火勢、又推て察るべし / 霧島山中央六所權現宮…、享保元年甲申九月、復霧島山上金剛・胎藏兩池の邊より火大に發し、神社悉く焼亡し、此處砂石の爲に六尺許埋没す、 / 狹野大權現社…又享保の山火に厄せらる、 / 霧島東御在所兩所權現社…、當社は、霧島嶽の東腰にあり、…、平地より、石磴三百六十餘級を経て登る、是より矛峯に登路ありて、亦遠からず、…、當社、古來靈蹟甚多しといへども、山上火災起りし時、多く其傳を失へり、 / 霧島山佛華林寺神徳院…享保元年丙申九月廿六日より、翌二年正月七日に至り、霧島山火を發せし時、狹野權現社及當寺、延焼に罹り、高原高崎等の諸郷も、民屋山木皆焚く、凡そ諸縣郡の諸邑田園、被災者十三万六千三百坪餘と見えたり、 / 霧島山華林寺東光坊錫杖院…、享保の年、霧島山亦大に燃え、此時も寺廟其火災に罹れり、
-5	霧島・西嶽 地學協會報告 夜半頃ヨリ霧島ノ西嶽震動シテ、周圍三里半程處々ニ噴火破裂シ、為メニ其ノ地内ニ在ル所ノ山林、及ヒ神社佛院等ハ悉ク焼失シ、其他災害ヲ被リシモノ、砂石入ノ外城外城トハーケ郷ヲ云 十貳焼失シ、此ノ家數六百軒或ハ六百四軒負傷三十一人、斃死ノ牛馬四百五頭、田畑六千二百四十町八反六畝十九歩、此ノ農産高六萬六千百八十二石餘(官報)、其ノ後三四年ノ間、灰下リテ恰モ春霞ノ如クナリシト云フ ※『日本災異志』
-6	霧島山 古今山之口記録 大燃、当地え壺歩ニ砂石共ニ六斗四升降候、此時高原之内神徳院門前并宮寺花堂町不殘、東光坊并宮祓川不殘焼失、郷人方々立除候 ※『南九州文化』
-7	霧島山 霧嶋山縁起續禄艸案 于斯今日申刻神火夥而暫止矣、已亦到戌刻殊夥爆聲猶如雷霆猛炎高上斜靡来覆于頭頂、忽雨火石、此夜寺院焼失焉、 ※『宮崎考古』No.23
-8	霧島山 霧島山佛華林寺狹野世譜 未刻鳴動夥而、焰火遮り覆ス於蒼天ヲ同日戌時又々燃へ出テ爆聲百千ノ雷霆モ不以テ可ラ喩炎焰靡キ垂テ過ル當寺(社)之空ヲ而、砂礫如シ雨ノ亦焰石大平車輪ト斎矣、墮チ入ルノ地ニ出ル時キ恰似タリ地震ニ、皆ナ狼狽シ騒動スルコト其ノ形勢以テ難シ述焉。此時寺院焼失矣。
120	享保元年10月21～23日 1716年12月3～5日 霧島山 三州年代記 同十月廿一日より同廿三日迄時々大神火有之
121	享保元年12月26日 1717年2月7日 霧島山・新燃 西藩野史 享保元年…、霧島山火アリ十二月二十六日復火アリ
-1	霧島山 島津國史 霧島山復發火。雨灰四日。高原。高崎。高城。都之城。小林。須木。野尻。倉岡。綾。穆佐。高岡等處田疇。皆爲所埋。牛馬多子。(同上【據浄國公舊譜】)
-2	享保元年12月26日～29日 1717年2月7日～10日 霧島山・新燃 鹿兒島縣噴火書類(福島嚴之助編纂) 霧島山新燃今日ヨリ二十九日迄四日相續大燃高原高崎庄内高城穆佐都之城小林倉岡綾高岡須本野尻邊迄石灰降田畠大分損失人馬及死失。 ※日本噴

	火志
122	享保元年12月28～29日 1717年2月9～10日 霧島山 承寛襟録 松平薩摩守領内日向國鶴鳴山去年九月より焼出し震動相止不申候処旧臘廿八日九日兩夜夥鋪震動同國御代官所那珂郡之諸郡縣【二字ママ】十三ヶ村高一万石余之處鶴鳴山よりハ道程十里余有之所江焼灰砂利段々降り
-1	霧島山 三州年代記 十二月廿八日霧嶋大神火高原花堂衆中不残焼失都城片漆村焼同廿九日晚大燃高崎宇賀大明神梅龍寺在郷一ヶ所焼失
-2	霧島山 古今山之口記録 同年十二月廿八日晚大燃當地迄暗二相成灰降候此地飛松邊江者大石降候此時高原之花堂武士方不残焼拂嶋津筑後殿領片添村焼拂彼邊者壹貳尺近成石降候砂灰共二八九寸壹尺余降候所も有之同廿九日晚大燃當地茂暗二成小砂降候高原之内鴨牟田村高崎之内朝倉名邊過半焼失也 ※『南九州文化』
-3	霧島山 霧嶋山縁起續禄艸案 正月三日社頭門花堂高松都焼失旧冬自廿八日以来燃出大方無止事、殊兩三日大燃也、 ※『宮崎考古』 No.23
-4	霧島山 霧島山佛華林寺狹野世譜 又々大ニ燃、亦翌廿九之晦日、享保二丁酉ノ元朝、殊ニ大燃而社頭煨燼ス。又同三日本地堂炭灰矣。此ノ後同ク正月七日猛煙有テ之レ漸々滅滅ス。砂石重積スルコト凡ソ及二尺二者也。
123	享保2年正月3日 1717年2月13日 霧島山・新燃 承寛襟録 当正月三日の朝五ツ半時より九時迄闇夜に成大地震砂交り焼石降り積候処田畑麥作菜園埋事四五寸七八寸悉砂地と成り御代官室七郎左衛門より注進有之候
-1	享保2年正月3日～ 1717年2月13日～ 霧島山・新燃 八丈嶋年表 享保二酉年三日辰ノ刻頃ヨリ中天夜陰ノ如ク闇ニ成ル、但東西南北ノ麓ハ晴天、島中郷里家々ノ内暫クノ内闇シ、…、同十日申酉ノ間ヨリ小雨ノ如ク白キ砂降ル。 ※『日本噴火志』
-2	霧島山・新燃 島津國史 二年。丁酉。春正月三日。霧島山發火。（據萬代記）。七日。復發。連日不熄。燒錫杖院。及管下民居。凡諸縣郡諸邑田園。前後被災者。十三萬六千三百坪有餘云。（據浄國公舊譜。萬代記。錫杖院。在高原郷。） ※白尾國柱の麓藩名勝考は「俗に兩郡嶽新燃と云」
-3	霧島山・新燃 鹿兒島縣噴火書類（福島嚴之助編纂） 正月三日霧島山新燃又々大燃有之此以降七日ヨリ十一日迄打續大燃彼邊火石ニテ家屋焼失錫杖院寺家不残焼亡田畠石灰ニテ降埋牛馬過分死失高原高崎兩所役人共迄方々へ引越居候」旧臘二十六日ヨリ當正月十一日迄度々大燃日向國諸縣郡ノ内諸所損失致左ノ通 田畠十三萬六千三百坪餘」石砂灰入高三萬七千九百五十石餘」雜穀千五百四十石餘」堂社十一宇、寺家三十軒、寺門前五十三軒、社家二十六町【軒、】百姓十四軒、死人男一人、怪我人三十人、死牛馬四百二十疋。 ※『日本噴火志』
-4	霧島山 古今山之口記録 同二年酉正月三日大燃此迄暗二成灰砂降高原之内入来名石ヶ野名川平名過半焼失 ※『南九州文化』

-5	霧島山 三州年代記 正月元日雲同三日霧嶋大燃高原之内入来名石ヶ野名川平名過半焼高崎麓家 十四五ヶ所焼失
124	享保2年正月6日 1717年2月16日 霧島・西峯 隅陽記 夜入、霧嶋山神火、大二焼初、数日、
125	享保2年正月7日 1717年2月17日 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、… 中御門帝、享保…同二年、正月七日、又燃 ゆ、俗に兩郡嶽新燃といふ、諸縣郡諸邑田園、前後被災者、十三萬六千三百 餘區といふ、
-1	霧島山 古今山之口記録 同七日大燃當地迄大石小石降也壺歩二壺斗三升有之 ※『南九州文化』
-2	霧島山 三州年代記 正月七日雲今日より同廿一日迄霧嶋時々大燃七日昼八ツ過時分二成候てハ 鹿児島より火光り見る同八日夜五ツ時分神火夥々敷其晩ハ成程晴夜同十日昼 四ツ時分より同十一日九ツ時分より同廿一日大燃砂石ハラすく一時二時計つ ゝ間有之一時か一時半計つゝ燃候正月七日降砂石山之口ニ而例見此中よりハ ラすし壺歩二壺斗三升計有之と云々今度砂降候外城高原高崎野尻之内高城 山之口都之城之内也
126	享保2年8月2日 1717年9月6日 霧島 三州年代記 霧島神火燃之節は必西風ニて致光物雷之様鳴渡候
-1	霧島山 古今山之口記録 大燃當地も屋ミニ成灰降候 ※『南九州文化』
127	享保2年8月15日 1717年9月19日 霧島 西藩野史 霧島山大ニ火アリ硫黄池ヨリ送り大石空ニ跳リ火氣炎々トシテ晝夜絶ス其響迅 雷ノ如シ土灰近國ニ飛ヒ近郷田ヲ埋ムコト數十里衆恐怖シテ或ハ以テ山神ノ怒 レルトシ或ハ神火ト稱ス
128	享保2年9月27日 1717年10月31日 霧島・西峯 隅陽記 霧嶋神火、別而大火ニて、大石夥敷飛、夜ハ御領國中鳴り渡候、
129	享保3年2月27日 1718年3月28日 霧島 三州年代記 夜霧島大燃高原高崎へ砂石灰式寸程降埋候由聞得候
130	享保3年12月27日 1719年2月15日 霧島山 島津國史 霧島之發火也。雨灰數里。高原。高崎。被災尤甚。田園皆爲沙土所埋。【除 去作業について略】（據萬代記。高奉行所出米帳。）
131	享保11年 1726年 大雨・鹿児島 島津國史 享保…十二年。…去年大雨。壞鹿児島城下東北土居三所。溝堤三所。
132	享保13年6月3日 1728年7月9日 地震・喜入 喜入町郷土誌増補 改訂版 地震があり、愛宕神社脇が崩壊したため、土砂が愛宕川（当時は永田川と呼んでい る）を埋め、付近の田地が荒地と化した。
133	享保14年8月3日 1729年8月26日 大風 島津國史 大風。 ※鹿児島県史年表は下と併せて8月に「大風兩度に及ぶ」とする
134	享保14年8月19日 1729年9月11日 大風 島津國史 又大風。（據公義書舉帳。自是以後。凡大風大水。見公義書舉帳者。書之。 不然則否。）

135	元文3年8月5日 1738年9月18日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 夜至六日洪水峰崩谷穿田地荒壊死牛馬多
136	寛保元年7月21日 1741年8月31日 大風・封内 薩藩野史 封内大風民家傾倒れ大木根を抜く。 ※『県災異誌』
-1	大風洪水・種子島 種子嶋家家譜 夜至翌朝大風洪水損田二千二百六十五斛有余破家二千九百九十六斃馬百十三疋牛二十一頭
137	寛保2年3月2日 1742年4月6日 桜島 地學協會報告 大隅櫻島山噴火 ※『日本災異志』
138	延享元年8月10日 1744年9月16日 大風雨・日向 日向国史 10月大風雨降【？洪？】水あり。領内損害高210町3,789石7斗8升,倒屋327戸,破船9隻,死人8名,佐土原被害殊に甚しく倒屋300余戸,死者43名を算す。 ※『県災異誌』
-1	鹿児島 三州年代記 八月七日朝辰刻地震同十日大風鹿児島所々も降候
139	延享3年2月25日 1746年4月15日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 洪水中之村田地溝洫多損
140	延享3年8月23日 1746年10月7日 大風高潮・種子島 種子嶋家家譜 自戌時至寅ノ時刻大風大潮崩田二千百六十石餘阡陌七百五十五間流レ家八字倒レ家五十八宇損家百零五宇破レ厩三百二十或斃或流牛馬廿五疋破船大小三十三艘
141	寛延元年8月 1748年9月 津波（高潮）・串木野 神社佛閣調帳 羽嶋村之内湊泊海邊 一 羽嶋崎大明神 海邊二造営之社二而寛延元年辰八月津波之節諸品都而到流出候由申傳候 ※ 前に「下名村之内嶋平寺嶋 一 松尾大明神 一 獅子駒二ツ 一 鰐口無銘 一 具足 一 刀 右式行宝物寛政元年津波之節流失之由」とする
142	寛延元年9月2日 1748年9月24日 海笑（嘯）（高潮）・市来 三國名勝圖會 當郷に海笑來りて、陸地に上る、其時地頭館内に藏めし舊記等、皆失せし故、往古の事蹟詳ならざること多しとぞ、
-1	大風・高潮 三州年代記 晚六ツ時分より大風吹出戌亥刻盛ん新屋敷樋之口山之口馬場迄塩大分あふれ出井水ニ塩入久敷塩ハゆし且西目筋大塩ニ而市來港串木野海辺家流れ所々破損ニ而両所共ニ死人過分之由候
-2	暴風雨・大波浪 坊津久志 西南方村郷土史／鹿児島縣維新前土木史 大暴風雨で大波浪ありために防波堤全部打くづれ、人家倒壊四十餘戸其の中全部潰滅せしもの貳十有餘軒に及びし／颱風の爲め海岸構造物悉く破壊人家二十軒倒壊二十軒半壊の惨状を呈せり

143	寛延元年10月13日 1748年11月3日 竜巻・鹿児島 三州年代記 一、十月十三日戌刻計雷事々敷風雨烈敷上城之谷より辻風暴ク吹起り其一通ハ盤石も吹起し候程之風ニて家杯も半分より吹切候程也茅家杯其俣馬場ニ吹落し所々破損不断光院浄光明寺大龍寺後迫邊迄一通之風ニて脇ハ痛不申世間ハ左程之風ニ而無之候
144	寛延2年 1749年 大風水害 鹿児島県史年表 八・大風水害 九・大風水害 十・大風水害あり
145	寛延2年7月2日 1749年8月14日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 洪水荃永村平山村田地多破壊
146	寛延2年8月 1749年9月 桜島 日本噴火志 己巳八月向島野尻村ノ上太平山焼ル。 ※『県火山志』によれば池田氏蔵年代記から
147	宝暦元年2月12日 1751年3月9日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 洪水田地溝洫多損
148	宝暦2年4月15日 1752年5月28日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 洪水下之郡田地多損
149	宝暦2年8月9日 1752年9月16日 大風洪水・薩摩国 島津國史 大風洪水。(據公義書舉帳。)
150	宝暦3年5月17日 1753年6月18日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風嶋中倒家七軒破家五十五軒告 官
151	宝暦3年6月18日 1753年7月18日 大風・薩摩国 島津國史 大風。 ※『鹿児島県史』年表は下と併せて6月に「大風水害あり」とする
152	宝暦3年6月29日 1753年7月29日 大水・薩摩国 島津國史 大水。(據公義書舉帳。)
153	宝暦5年7月13日 1755年8月20日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風至十五日止多損壊田畠破船一艘倒家廿六損家百廿七事達官
154	宝暦5年8月24日 1755年9月29日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風倒家廿六
-1	大風 加治木 隅陽記 ハツ時分ヨリ大風、廿五日晚七ツ迄吹止、
155	宝暦6年 1756年 桜島 地學協會報告 大隅櫻島山噴火 ※『日本災異志』
156	宝暦6年8月 1756年8月 桜島 櫻島上山年代記 向島横山温泉涌出 ※『櫻島大正噴火誌』。同書によれば『大日本山岳志』に「大隅国櫻島噴火」の由
157	宝暦7年3月7～8日 1757年4月24～25日 大雨・宮之城 湯田旧塘の碑 両昼夜大雨及暁水忍逼堤崩二十六間余転巖土石散乱而麦田二町六反一瞬之間埋没矣厥逆音如雷霆聞数里…子冬丑春氷雪頻也而荏穿土穿堤蕩急雨迫廢散乎
-1	洪水 加治木 隅陽記 七日ヨリ八日朝、洪水、網懸橋いたミ候、依之修甫有之候、
158	宝暦8年7月19日 1758年8月22日 大風・山川ほか 三州年代記 申ノ初刻に至り大風吹起甚敷夜入時分ニ吹止候鹿児島嶋中破損多し此大風山川の邊甚敷他國ハ吹不申候由

-1	大風・種子島 種子嶋家家譜 大風田地家屋多破損
-2	大風 加治木 椿窓院殿供養塔 颶風暴起林木咸拔古樹一枝偶折靈塔
159	宝暦10年1月19日 1760年3月6日 地震・鹿児島 三州年代記 朝六時分夥々敷く地震有之候
160	宝暦12年7月9日以前 1762年8月28日以前 大風・九州 續史愚抄 昨今。九州大風云。(年代略記)
161	宝暦13年3月 1763年4月13日～5月12日 諏訪之瀬島 隅陽記 七島之内諏方之瀬燃出、一島之人、皆思々脇嶋へ逃、
162	明和元年3～4月 1764年4～5月 洪水・種子島 種子嶋家家譜 大二雨フル洪水田地多損
163	明和元年6月26日 1764年7月24日 洪水・徳之島 徳之島面縄院家 蔵前録帳 大供(ママ)水ニ而三間切御田地打凶(ママ)多永損地ニ入ル
164	明和元年8月11日 1764年9月6日 大風(竜巻?)・鹿児島 三州 年代記 未下刻より大風辰巳より吹起北風と而申刻吹止世二辰巻二而は無之哉と申候 鹿児島中所々破損多し
165	明和3年4月12日 1766年5月20日 洪水・桜島 櫻島上山一氏蔵年 代記 桜島高山ヨリ洪水出テ、野尻村、赤水池境、川良堤切テ、野尻村畠大分損ス。 夫ヨリ、川良三間廣マル。 ※『県火山志』
166	明和3年4月28日 1766年6月5日 地震・桜島 日本噴火志 「夜明ニ鳴物イタシ大地震間少シヅ、有テ小地震三度ユル」。
167	明和3年6月21日 1766年7月27日 地震・桜島 日本噴火志 「同六月二十一日(太陽暦七月二十七日)夜八ツ時頃迄(午後十時頃)鳴物九 度、地震七度ユル、内二度ハ大震」云々。 ※上の124と共に『県火山志』に よれば櫻島上山年代記から
168	明和5年1月26日 1768年3月14日 霧島・硫黄山 飯野町郷土史 場所は飯野の山腰にて、流れ二丁ばかり横五十間も御座有るべき候や、別し て震動仕り候由承り及び申候。… 一、震火の事、出羽守罷り越候時分、加久藤より見分仕り候節は、黒煙すさま じく巻き上り、甚だ火勢強く相見え候。然る処に三月三・四日の頃より、煙引き 替り薄く相見え罷り成り候。 一、出羽守飯野え罷り越候節は、加久藤にて役々の話に、此の度震火につき、 加久藤の内三ヶ村に掛り候。溝流れに灰汁下り、別けて田畑の障りに相成り、 当分の通りにては、三ヶ村に千五百石の痛みに相成る由話にて候。然る所に 出羽守罷り帰り候節の話には、震火も此の内と格別に縮まり、水も清く候故、 仕付け等の差支えも之れ有る間敷しくと申す事にて候。此の水道は、馬関田ま でも懸り通る溝にて候。此の溝は大川筋にてはなし。水上は此の度び震火の 場所近くより流れ出で候小溝にて候。灰の沈み候は厚さ一寸余溜まり之れ有り 候故、田地に種子を蒔き候ても、硫黄・灰氣にてかみきりて生じかね候故、外 村の田地を借り候て種子を打ち蒔き候。然れども当分の通りにては、連々相納 まり左様の沙汰にも及ぶまじくと土民を始め皆悦び申す事の由、話にて候事。

169	明和6年8月1日 1769年8月31日 大風 三州年代記 大風田地十萬石之上免高有之由にて候
170	明和8年7月～9年 1771年8月～1772年 霧島・西峯 三國名勝圖會 西峯發火…其社記に所見は、… 後桃園帝、明和八年より、翌年に至て、又燃ゆ、凡享保元年より、是歳に至り、大に火て屢熾なり、燒石焰となりて、虚空より隕ち、沙石糠を簸るが如く、灰燼雨て晝も夜に異ならず、行人筵席を戴て、其壓傷を遮り防ぎけり、數里の間、田疇を埋没し、草木焦枯る、往古の火勢、又推て察るべし ※白尾國柱の『甕藩名勝考』は「明和八年辛卯七月、至翌年壬辰又炎、」とする
171	明和9年 1772年 霧島 薩隅日地理纂考 明和九年ノ炎ニモ諸縣郡ノ諸邑民屋田園災ヲ被ルコト十三万六千三百區ト云ヘリ
172	安永3年7月14日 1774年8月20日 大風洪水・種子島 種子嶋家家譜 大風洪水田地多損顛倒百五十二家聞事于官
173	安永3年月日 1774年月日 大風洪水・種子島 種子嶋家家譜 夜大風糸荷船(官遣船琉球載異邦産來謂之糸荷船)臺所船(久芳載貨物運漕スル于他謂之臺所船)其餘破大小十六艘于赤尾木港
174	安永6年夏秋 1777年夏秋 大風・徳之島 鹿児島県史年表 是夏秋にかけて徳之島大風數度あり
175	安永7年秋 1778年秋 大風・諸外城 鹿児島県史年表 是秋大風兩度、諸外城永損多くして普請夫數萬に及ぶ
176	安永7年7月9日 1778年8月1日 大風・種子島 種子嶋家家譜 至十日大風倒家七十二告事于官
177	安永7年8月7日 1778年9月27日 津波(高潮)・沖永良部島 沖永良部島代官系圖 大津波有之、辨財天石垣並三[上]假屋石垣打崩シ、假屋床之下より三、四尺程あがりて、假屋内[門二]二、三尺程有之候大魚數疋相見得候
-1	安永7年8月7・8日 1778年9月27/28日 大風・奄美大島 大島代官記<大島私考> 大風兩度戌八月七・八日大風、高蔵三百三拾六倒レ、馬貳疋死ス、板附船貳拾八艘ナガル、
178	安永8年9月29日～ 1779年11月7日～ 前震・桜島 續日本王代一覽 安永…八年巳【己】亥…九月…同廿九日ヨリ薩州鹿兒嶋ノ澳櫻嶋大地震ス櫻嶋南ノ山ヨリ火焰出テ烈火散亂シ熱沙泥土ヲ涌出シ大石火勢ニ乗シテ四方ニ飛散シ田畠ヲ潰シ家宅ヲ燒亡ス人民死亡者凡一万六千余人ナリ十月中旬ニ至テ火焰漸ク滅ス
-1	前震・桜島 種子嶋家家譜 九月廿九日至十月一日櫻島及海中大燃(廿九日方吾地之乾黒雲冲天地震鳴如雷至十月一日朝雨灰如雪積可二三寸)即方東北嶼涌出七
179	安永8年10月1日～ 1779年11月8日～ 前震・桜島 櫻嶋池田氏藏年代記 安永八年亥九月廿九日夜入五ツ時分地震、翌十月朔日四時分迄無止事、四ツ半過ヨリ嶽白水之後ニテ候也、權現宮ニ當リ煙相見得、同八ツ時分ヨリ有村之上燃ノ頭ノ邊ヨリ黒煙何里トナクアカリ、無間高免村ノ上瓶掛ノ邊ヨリ燃出

	ル、高免ノ沖島ニツ涌出、…十月朔日炎火、大石・軽石・砂灰巻上ケ、降事五日ニ及、高免村ヨリ古里村迄ノ人数、谷山・喜入・今和泉・垂水・牛根・福山・國分之内小村エ追々相迦、湯ノ村ヨリ白濱村迄人数最寄ノ鹿兒嶋磯・脇元・重富へ相迦シ、前平ハ十月七日・八日比ヨリ歸宿候モ有之、燃元近キ白濱村・湯ノ村難歸、十月中旬迄モ不歸候、遠外城へ相迦シ候人ハ其所ニテ賄方有之、已後御物返米被成下候、古里村ヨリ高免村迄居家焼失ニ付、本在所エ居住難成、鹿兒嶋砂糖藏内ニ木屋掛、出米明藏六ツへ被召入置、瀬戸村之儀ハ上築地池田庄右衛門明屋鋪へ木屋三ツ出来、松岡伊右衛門屋鋪へ木屋掛一ツ出来被召入置、【避難者支援略】人数二千三百三十四人、衆中四百三十五人、内上男百九十八人、下男四十四人、上女百五拾五人、下女三十八人、社人三十九人男二十一人、下女一人、女十二人、下女一人、百姓千八百六十人、外死人百四十七人内二十四人、衆中方上男九人、下男三人、上女十一人、下女一人、百廿一人、百姓方男六十一人、女六十人、 ※『舊記雜録』
-1	前震・桜島 重豪公御譜 同年十月朔日櫻島地震發火頃刻而熾、烈焰滿空沙石填壑、余即命有司具舟數十艘載其民、而致諸城下者數十百人、【避難者支援略】然方火之發也飛巨石崩積巖、其勢甚猛且急、於是島民焦頭爛額折脅搗齒僵、且死於溪壑之間者亦居多云、 ※『舊記雜録』～1635
-2	前震・桜島 櫻嶋燃上記 安永八年己亥九月廿九日夜より十月朔日に至り 本府城下及東南北數十里の間、地の震こと頻なり、已に當日の未尅を過て、城下東方對岸櫻島の上に火を發し大に炎上り、火炎れば地愈震、地震へば火愈炎、或は相應するに似たり、或ハ相激するに似たり、而其烟の出や結て萬朶となる、族て數隊となる、沸騰すること驚濤怒浪の如し、競起すること疊嶂層巒の如し、愈升り愈高、幾丈を限るべからず、愈漫愈遠幾里を限るべからず、其光の耀や烈々燒天をは、則九重の上へ盡紅なり、煌々照海をは、則千尋の底悉明なり、星斗爲之に色を失て出こと不能、魚龍爲之に形を現て遁こと不能、疾電縱横するは焰を閃なり、流星上下するハ石を飛すなり、迅雷動山をは其聲の振なり、烈風蕩海をは其響の轟なり、應是千巖崩て無底の谷に墜、萬壑陷て不測の穴に淪べし、大凡一晝一夜所觀奇々怪々にして難名け難狀、變々幻々にして難認難指、見之を者は乍目の眩を恐、聞之を者ハ頓に耳の塞を覺、若是なること五日を経て而して後稍微なり、然共其火勢未ざる遽已なり、或は三四時を過て炎、或は一二日を隔て炎、其烟已に伏せり、而復起、其聲已に止れり、而復鳴、又東北五六里の海底より炎上る、其響日夜隱々として不已、既にして海上頓に中洲を現す、水を出ること高サ貳丈餘、周半里許なるへし、蓋一月を既て全く無事なり、是に於て櫻嶋の形、突然として出る者は平となれり、隆然として起者ハ凹となれり、復舊日の面目にあらず、如其城下の人民初て火の作を見るや、家々周章し、人々倉皇し、座して席を不安、食して味を不甘、荷擔して立、包袱して出、互に相驚して或は餘焰將及といふ、或は飛石將落といふ、或ハ海嘯將至といふ、訛言區々にして人情洶々たり、既にして而して城下に灰を雨す、飄飄として風に随ひ、繽紛として地に滿、碧瓦朱甍俄に素を積、青松緑竹頓に花を著、至若簾戸に入り筵席に集り、器皿に落、飲食に糝、而して道を行く者は張傘を戴笠をといへとも撲面を昧目に、頗る患をなせり、然而時方に三冬に向、日夜西北風多し、東南風少し、是を以て城下灰を雨すこと猶差少しとす、垂水・牛根・福山等の諸邑、下風に在者ハ、則灰を雨すこと簸沙をに似たり、石を飛すこと

投礫をに似たり、隴畝を没、溝渠を埋、菜蔬を殺、草木を傷に至る、而峽内十餘里の間には往々浮石屯聚す、厚六尺許、周半里許なる者あり、以て舟楫の往來を絶といふ、若乃櫻島に至ては、則地の震こと他所に十倍せり、室に入れハ恰も鞦韆に乘に似たり、庭に出れば却て紅海に漂に似たり、臥ときは則轉、立ときハ則顛、行ときハ則僵、其患既に不可言者あり、而其火の作るに及てや盤石の落こと霰の如し、俄頃の間に積で五六丈に至る、灰燼の降こと雨の如し、須臾の際に深さ二三十尋に至る、飛鳥も翼を折、走獸も蹄を傷り、輕猿も枝を墜、老馬も道を失ふ、加之黒烟湧出上下に充、四方に塞る、冥々濛々陰々漠々たり、是に於て其民座者は起に不及、立者は走に不及、或は抑壓せられて死す、或は亂撲せられて死す、或ハ掩埋せられて死す、不然は則或は舟を争て紅海に溺れ、或ハ方を失ふて溝壑に陥り、或は路上に羸頓し、或は巖間に飢餓す、數日の後に及て戸口を點檢するに嶋民死者總て百四十餘人なり、鶏犬牛馬の死者に至てハ枚擧すへからず、而して東北海上七八里の間には、則魚の死する者無數なり、蓋海底の炎の爲に傷らるゝと云、是に於て都鄙傳言、某處に屍あり焦頭を爛額なり、某處に屍あり折脅を摺齒をなり、某處に屍あり已に壅粉となれり、某處に屍あり殆と臭腐となれり、某岸に漂到の屍は小兒なり、某色の緋を着たり、某岸に漂到の屍は婦人なり、某色の帶を帶せり、慘毒の甚間に不忍なり、嗚呼是日如何なる日哉、無辜の民をして如此の極に至しむるなり、然とも櫻嶋の地に十八村あり、而火の作ことや適に古里村・有村・脇村・瀬戸村・黒神村・高面村の上に當れり、是を以て六村の民死者多し、其外十二村の民は則免者多し、乃麋鹿の屬の如は、海を洄て北のかた吉野に至者あり、而火作の日 公命して速に舟船數百隻を出し、轆轤相接して嶋民を濟す、是を以て老を扶、幼を携て免者二千餘人なり、【避難者支援略】 ※『舊記雜録』

-3 前震・桜島 三國名勝圖會

安永八年癸【己】亥十月朔日、櫻島岳大に火を發し、炎上れり、初め九月廿九日、亥の上刻より、方數十里の間、地震ふこと甚し、翌朔日巳午の刻に至り、島中の井悉く沸騰り、所々水迸出づ、又海水紫色に變ず、未刻に至りて、山上兩中【絶頂に三の池あり、南岳にあるを白水と名づけ、北岳にあるを御鉢と名づく、白水・御鉢の中央、凹にあるを兩中(フタナカ)といふ】より忽ち一帶の黒烟を吹出し、頃らくして大に鳴動して、東西兩所一時に炎上れり、火炎ゆれば、地随て震ひ、地震へば火愈炎て、沙石を飛し、泥土を流し黒煙空に覆ひ、白日晦冥にして、忽ち暗夜の如し、始め其煙の出るや、沸騰すること驚濤怒浪の如し、競起すること疊嶂層巒の如し、愈升り愈遠く、幾里を知るべからず、遂に白日變じて暗夜の如に至る、其光の耀くや、烈々として天を焼ば、九重の高きも盡く紅ひとなり、煌々として海上を照せば、則ち千頃の廣きも悉く明なり、其焰を閃すは、疾電の縦横するが如く、其の石を飛すは、流星の上下するに似たり、其聲の振ふは、百千の迅雷等も比すべし、其響の轟くは、怒號の烈風も及ばず、山岳も悉く崩れんとし、坤軸も乍ち碎んとす、凡そ晝夜の所レ觀、變幻萬態にして、名状すべからず、是の如くなること五日を経て、炎火稍微なりといへども、其火未だ遽に止まず、或は三四時を過て炎へ、或は一方を隔て炎ゆ、炎て復止み、止みて復鳴る、又東北五六里の海底より、炎上る其響き、隱々として止まず、海上俄に洲嶼若干を沸出ず、別條に記す、故に此には畧す、凡一月を経て、漸く無事なり、於レ是櫻島の形状、突然として尖き者は坦然となり、隆然として起る者は凹然となり、復舊日の面目に非ず、初城下の人民、其火の起るを

見るや、餘焰將に及んといひ、或は飛石將に落んといひ、或は海嘯(ツナミ)將に至らんといひ、訛言區々にして、人情洶々たり、既にして城下に灰を雨すこと飄飄續紛として、風に随ひ地に滿つ、人家の筵席器皿、皆是が爲に汚れ及び面を撲ち目に眯りて、甚だ患をなす、然れども櫻島は、城下の東に在りて、此時日夜西風・北風多し、是故に城下灰を雨らすこと稍少し、垂水・牛根・福山等の諸邑、其下風にある者は、其灰を雨らすこと沙を簸が如く、石を飛すこと、礫を投るに似たり、隴畝を没し、溝渠を埋み、五穀・草木を傷るに至る、其下風にある内海數里の間は、往々浮石屯聚して、厚さ六尺、周り半里許りなる者あり、舟楫の往来を絶つ、其浮石上の海を涉て、垂水に至る者ありしとぞ、若亦櫻島に於ては、地の震ふこと他所に十倍せり、立は顛べり、行は僵る、其火の起るや、盤石の落ること、霰の如く、俄頃に積て五六丈に及ぶ、沙灰の降ること雨の如く、須臾の間に二三十尋に及ぶ、加之黒煙湧出して、上下に充ち、四方に塞がり、島民或は抑壓せられて死し、或は亂撲せられて死し、或は掩埋せられて死す、然らざれば或は舟を争ふて溺れ、或は方を失ひ倒る、數日の後、戸口を點檢するに、島民死する者總て百四十餘人なり、其傷損する者は、枚擧すべからず、雞犬牛馬の死する者は、推て知るべし、又東北南海七里の間には、魚の死する者無數なり、蓋し海底火氣の爲に傷らるといふ、櫻島の地に火の起ることは、適に湯之村・有村・脇村・黒上村・向面村等の上に當れり、是を以て此村の民頗る死し、餘村の民は免るゝ者多し、火起るの日、 邦君命じて速に舟船數百隻を出し、島民を濟ふ、是故に其老幼を携へて、城下に避る者二千餘人なり、【避難者支援略】後大坂の人曰、安永八年十月二日、大坂に沙灰降る、諸人大に怪しむ、時に丹後浦島の人來り、彼海邊に夥しく浮石寄來る、是海島の燃ならんといひしに、果して櫻島の事を聞たりとぞ、其頃は本藩日ごとに西風のみ吹つゞきたる故に、かく速に沙灰を大坂まで降せしなるべし、 / 【燃崎の】一は向面村にあり、安永八年、十月の燒石にて、島民新燃崎といふ、一は有村にあり、是亦同時なれば、新燃崎といふ、 / 【福山野牧場苑について】安永八年、櫻島炎上の時、其地砂灰に埋れて、水艸なく、馬を牧する事を得ずして、其牧場を廢す、 / 【末吉野牧場苑について】安永八年、十月、桜島火(モヘ)て、砂石降りし故、災害を受く、因て此苑を、天明元年、福山野牧場苑へ合はす、

-4 桜島（沖） 續史愚抄

安永八年…十月…二日壬子。昨今。伊勢已下諸国雨灰。有淺深。是薩摩櫻島燒出。因所及也。(愚紳、年代略記) 三日癸丑。自去一日薩摩櫻島晦冥。晝夜震動。自海底硫黃精激發。蒼海變火。忽涌出數嶋。櫻島人民禽獸大半死。雨灰埋樹竹人家。纔今日見天色云。(愚紳、年代略記)

-5 桜島（沖） 安永櫻島噴火史料

※櫻島炎上記も含め、量が多いため別冊

180 桜島（沖） 櫻島池田氏藏年代記

安永八年亥九月廿九日夜入五ツ時分地震、翌十月朔日四時分迄無止事、四ツ半過ヨリ嶽白水之後ニテ候也、權現宮ニ當リ煙相見得、同八ツ時分ヨリ有村之上燃ノ頭ノ邊ヨリ黒煙何里トナクアカリ、無間高免村ノ上瓶掛ノ邊ヨリ燃出ル、高免ノ沖島ニツ涌出、十一月六日夜島一ツ出ル。同十二月十一日晚島一ツ湧出漸々高ク廣相成、 ※『舊記雜録』

-1	安永8年10月14日～ 1779年11月22日～ 桜島沖 三國名勝圖會 安永八年癸【己】亥十月…、又東北五六里の海底より、炎上る其響き、隠々として止まず、海上俄に洲嶼若干を湧出す、別條に記す、故に此には畧す、／新島(シンシマ) 向面(カウメン)村の前にあり、其島凡そ五、(ツ)安永八年己亥十月…、十四日一島湧出す、向面村の地を距こと三町、其南北五十七間、東北五十間、高さ一間三尺許、其翌年七月朔日、水中に没して、今見えず、是を一番島と云、十五日又一島湧出す、一番島を距こと卯の方、一町十六間許、向面の地を距こと四町半許にあり、其状崑島なり、是を二番島と云、俗に猪子島と稱す、己亥十月、化成の故なり、十一月六日夜、又一島湧出す、二番島を距こと巳の方、十五町、向面の地を距こと三十町許にあり、其状又崑島なり、是を三番島と云、十二月九日夜、又一島湧出す、三番島を距こと午の方、六町許、向面の地を距こと廿三町許にあり、其状亦崑島なり、是を四番島と云、三四の兩島は、硫黄の氣あり、因て俗に硫黄島と稱す、
-2	桜島沖 櫻嶋炎上記 又東北五六里の海底より炎上る、其響日夜隠々として不已、既にして海上頓に中洲を現す、水を出ること高サ貳丈餘、周半里許なるへし、 ※『舊記雜録』
181	安永9年4月8日～ 1780年5月11日～ 桜島沖 櫻島池田氏藏年代記 安永八年…、翌年四月八日島二ツ涌出、白砂島ニテ候、 ※『舊記雜録』
-1	海嘯・桜島沖 三國名勝圖會 九年庚子四月八日、二島並に又湧出す、五月朔日に至て、自ら合して一島となる、四番島を距こと未申の方、十四町餘、向面の地を距こと十二町許にあり、是を五番島と云、今俗に安永島と稱す、六月十一日、又一島湧出す、五番島を距こと丑寅の方、十四町餘、向面の地を距こと十町許にあり、是を六番島と云、九月二日、又一島湧出す、六番島の丑寅の方にあり、是を七番島と云、十月十三日、又一島湧出す、七番島の辰巳にあり、是を八番島といふ、後七八の島自ら合して一島となる、又其後六番に合し、三島連なり合し、自ら一島となる、因て併せ稱して六番島と云、漁人釣を垂るゝに魚を得ること最多し、俗に惠美須島と名づく、初め火を發せしより一年の際、海底鑄冶の如きの音あり、海潮沸騰して、砂を飛せ、泥を雨らし、或は泥を發し、石を發し、或は三日を経、或は五日を過、出没常なし、巨崑崩れて細石と變じ、泥沙聚りて洲崎に化し、其状定ることなし、其一島湧出する時は、必泥沙淤(ウヅ)まき上り、波濤怒號し峨々として山の如く、其高さ三四丈に至り、倒れて人家に逼る、島民畏れ避く、是を海嘯(ツナミ)といふ、一期を踰るに及で、炎氣稍退き、五島全く其形を成す、即其二番・三番・四番・五番・六番の五島、併せて新島と名づく、其中五番島最大にして、其周廻二十町、高さ六丈あり、草木發生し、水泉迸出す、於是寛政十二年閏四月、本府より島民六口を、此島に移し居らしむ、今向面の海底を測るに、深きこと凡そ八十尋、若くは九十尋あり、かゝる海底より諸島湧出せること、造化の功用、眞に不思議といふべし、
-2	津波・桜島沖 櫻島燃見聞書 七月六日福山町海辺津波来住家成り難く成様有之家浮引取候由候濱市方ハ同地へ波掛稻相痛み候由相聞得候同十五日二も津波来候得共昼干汐に候故不相痛由候右六日の日ハ國分の内濱市小村牛根浮津痛強く其外内場海辺都て相痛候由其後も少々宛津波来由候是ハ海中底より燃出候時其勢にて波来由候 ※『安永櫻島噴火史料』

182	安永9年6月 1780年7月 桜島 重豪公御譜 先達テ御届申上置私領櫻嶋燃手細ニハ相成候得共、今以不相鎮、近郡工砂石灰降、田畑用立不申及難儀候付、早速爲砂揚人夫大勢相掛置候、右通ニテ馬草等灰相掛、先達テ御届申上候後、去月初迄死牛馬多、且獻上仕來候蜜柑木并國用之櫨木損亡等、 ※安永9年6月26日(1780年7月27日)付け届出〜『舊記雜録』
183	安永9年8月11日 1780年9月9日 浪・桜島沖 櫻島上山一氏藏年代記 同八月十一日夜九ツ時分ニテ候ヤ、燃へ、遠炎アガル。初燃出ルハ替リナク、火煙何里トナク、煙ノ内ニヒカリモノアリ、且ツ大音ス。初メ燃出ルト同時ニ浪アガルコト三丈許リ、小池濱辺二丈許リ。白濱村ノ者共、相迦シ可申処、間モナク静ニ相成ルニヨリ無其儀。砂島大キク相成候。 ※『県火山志』
184	安永9年10月4日〜 1780年10月31日〜 大浪・桜島沖 櫻島上山一氏藏年代記 同十月四日夜四ツ前ニテ候ヤ、燃へ、遠炎アガリ、ヒカリモノ有之、大音相聞へ、海大ヒナリ大浪アガリ、無間静ニ相成ル。 ※『県火山志』
-1	津波・桜島沖 櫻島燃見聞書 右四日夜海中より燃出福山宮浦一ノ宮島井の本迄大波あがり敷根町迄あかり候由其外之所波わたり居候へ共委不相知候 子十月十三日 青天 セツ時に海中より燃出候福山町敷根國分辺へも波あかり候由大廻の方より牛根の方は少くあかり候由 ※『安永櫻島噴火史料』
185	〜安永9年11月3日 〜1780年11月28日 大波・桜島沖 重豪公御譜 先達テ御届申上置候私領櫻嶋燃付、近邊海中エ燃出候嶋々漸々大ク成候モ有之、海底より火勢強燃出候節ハ、大波ニテ近郡田地人家等打潰、城下迄モ高汐揚、海邊土屋鋪并町家破損所多、今通ニテハ此以後何程歟、可及損失儀モ難計候 ※安永9年11月3日(1780年11月28日)付け届出〜『舊記雜録』
186	安永10年3月18日 1781年4月11日 津浪・桜島沖 櫻島上山一氏藏年代記 安永十年辛丑三月十八日昼七ツ頃、本高免村ノ前出来嶋燃上リ、津波大ニアガリ、浦ノ前へ白濱村ヨリ薪採ニ参オリシモノノ舟打破リ、濱近ニオリシ男五人、女一人波ニ引カレ相果タリ。此所ニ漁獵セシ谷山和田濱ノ丸木舟、三人乗、四人乗二艘覆没ス。三人ハ死骸上リ、四人ハ行衛知レズ。小池村ノ濱ニ高サ七、八間程ノ浪上ル■【「コ」か】ト十度ナリ。又、海中ヨリ土呂、大石上ルコト数不知、白濱村ノ上ヨリ黒神、瀬戸村マデ潮揚ゲ、土呂交リノ雨トナリテ、降ルコトヲビタヅシク、土呂ノ積ルコト一尺許リナリ。松浦村ヨリ本高免村大燃崎ノ辺へ、庭松トリニ行キシモノ、燃ニ遇ヒテ三人乗■【「組」か】ノ内一人行衛知レズ、二人ハ漸ク助リ、半死半生トナル。 ※『県火山志』
-1	安永10年3月18日〜 1781年4月11日〜 桜島沖 重豪公御譜 去々年以來御届申上置候私領大隅國大隅郡櫻嶋燃之儀、漸々相鎮方ニ候處、先達テ海中エ燃出候島近邊、當三月十八日俄ニ燃出、最初之燃跡且其邊海中よりモ惣躰一同ニ如初發夥敷燃立、致地震等砂石灰降埋、死失等別紙之通御座候、其後少々勢モ薄候處、右同所又々致鳴動、… 一死人 八人 一行衛不相知者 七人 一怪我人 壹人

	一船大小 六艘 … ※天明元年4月26日【一七八一年五月一九日】付け届出～『舊記雜録』
-2	桜島(沖) 横山源太夫氏所藏 燃之記 丑三月十八日ハツ半時分俄に燃出嶋高の下より燃出高の岡燃崩し谷山の丸木貳艘虚空に吹き上高免村の波打涯より貳百間計有之候処に微塵ニ相成落爲居由八人の獵師共はかはらの鬼に相成浪涯へ死体爲有之由白濱村の者共多人數高免村の内へ燃に付枯薪取に参居右人數の内七人あつくところ（熱きか）ふりやけ死いたし候由濱辺へ罷在候故あつくところふひ少し上手の方へ罷居候者共はとろ薄き故少々は皮はけ候得共相助り候事 ※『安永櫻島噴火史料』
-3	桜島(沖) 藤崎万十廣次 燃之記 三月十八日谷山より魚取り差越居候者共五人燃死白濱村松浦村より薪取ニ差越罷候者共其流れ前と云所にて三人燃殺候 ※『安永櫻島噴火史料』
187	～天明元年4月8日 ～1781年5月1日 桜島沖 重豪公御譜 今月八日燃出候得共、無程火勢薄相成候、然共先々何様之儀歟可有之モ難計候、／ 私領櫻嶋當三月十八日、同四月八日燃ニ付テ、田畑損失等 ※『舊記雜録』
188	天明元年7月2日 1781年8月21日 大風・三州 續日本王代一覽 薩摩大隅日向大風
189	天明元年7月27日 1781年9月15日 大風洪水・種子島 種子嶋家家譜 大風洪水高千八百九十四石五斗余當損十七石余永損頽家五百四十四(倒家八十六損家四百五十八)死馬十五頭死牛十五頭流失船三(二枚帆)聞事于官
190	天明元年8月 1781年9月 大風・奄美大島 大島代官記 稀成大風有之、島中ニテ家數凡貳百軒餘吹崩ス
191	天明元年10月4日 1781年11月19日 桜島 櫻島上山年代記等諸書 燃島火を發す。又向島炎上 ※『櫻島大正噴火誌』
192	天明元年12月5日 1782年1月18日 桜島沖 日本噴火志 「晝七ツ時(午後四時頃)元高免村ノ沖燃上リ小池ヨリ夥シク見ユル」云々
193	天明2年 1782年 風水害・封内一統 鹿児島県史年表 是秋風水害、封内一統凶作となる
194	天明2年7月15日 1782年8月23日 大風雨・種子島 種子嶋家家譜 夜至る十六日大風雨田一町八畦廿三步永損廿六町五段五畦當損倒壊家七十厩五百三十七死牛二頭死馬廿五疋告事于官
-1	甌島 甌島郷士富ヶ尾移住記 大風雨片時も止まず、風は大木を折り水は野山まで沖中の如く諸所の堤を破損しあるいは田畑を埋めあるいは洗はぎさる程の大風洪水に、我も我もと撰立たる粟、野稻を吹きはぎ、唐芋は桂をも葉は落され、水流畑は川底になり洗いはぎもあり、口に言はれず筆に書き及ばぬ痛みなり。田稻も大方穂出まえなりしが二、三日も場所によりては四、五日も水にひたり少々は穂に出でけれども、茅の如くに枯れ捨たり、誠に秋のさびしさは何にたとゆるかたもなし、 ※『下甌島村郷土誌』
195	天明2年 1782年 桜島 重豪公御譜 及今焰炎不息、／ 今以諸所エ少々宛煙出燃未相止、 ※天明2年10月21日(1782年11月25日)付け届出～『舊記雜録』

196	天明3年8月7日 1783年9月3日 桜島 地學協會報告 大隅櫻島嶽大噴火雨灰砂遠及京師 ※『日本災異志』
197	天明4年6月25日・7月30日 1784年8月10日・9月14日 大風洪水 重豪公御譜 私領薩摩・大隅・日向國之内、當六月廿五日、同七月晦日大風洪水付損失之覺 … 一潰家四百拾四軒 … 一死人壹人 …
198	天明5年10月19日 1785年11月20日 桜島 日本噴火志 「夜九ツ過後平以前ノ燃跡邊ヨリ燃出ヅレドモ、間モ無ク靜マル、瀬戸村ニハ灰降り、…黒神村ハ輕石少シク降レドモ作方障リナク怪我人ハ無シ」 ※『大日本地震史料』は「櫻島上山一年代記」からとして「十九日向山炎上、」
199	天明6年 1786年 水害風害 鹿児島県史年表 是歲水害・風害・蟲害相踵ぎ、田畑被害多く、また死傷者を出す
200	天明6年6月，8月28日 1786年7月，9月20日 洪水，大風・三州 重豪公御譜 私領薩摩・大隅・日向國之内、當六月朔日より同廿一日迄之内洪水、同八月廿八日大風付、損失之覺 … 一潰家壹萬五千八拾七軒 一流家三拾軒 一堂社貳拾壹宇 … 一橋五百拾六ヶ所 一船大小貳百三拾七艘 一死人百九拾八人 内男百七拾四人 女貳拾四人 一死牛貳疋 一死馬三拾四疋
201	天明6年8月28日 1786年9月20日 大風・種子島 種子嶋家家譜 夜大風拔樹傷稻
-1	薩南諸島を除く藩内 嘉多美農水 一怪我人三人 一死人五拾六人 一行衛不相知人体九十九人 一琉球人死人四人 一右同行衛不相知人体五人 合人体百六拾四人 一高四万貳千八百四拾八石余 一死牛馬拾貳疋 一破船百七拾三艘

	一行衛不知舟拾艘 一倒家四千八百四拾貳軒 但、地方外甑島込ル、七島其外島々不相知、 ※『鹿児島県史料』
202	寛政2年6月18日～ 1790年7月29日～ 桜島 櫻島上山氏藏年代記 夜九ツ時御嶽大ニ鳴ル、十九日ハツ時分御嶽大ニ鳴レドモ煙ハ不見、雨不降 霞掛リテ絶頂相分ラズ、十九日ヨリ二十三日マデ灰降ルコト晝夜不止、煙立ツ コト無限、島中西瓜、煙草不殘大痛 ※『県火山志』・『日本噴火志』
203	寛政3年8月14日 1791年9月11日 桜島 櫻島上山一氏藏年代記 晝七ツ時御嶽燃ヘ煙立ち強ク鳴ル、西風吹前平ニ灰降ル、後平黒神邊ハ日中 全ク夜ノ如シ、然レドモ別ニ障ナシ、最初燃ノ時ノ通り黒煙巻上夥シク見ユルモ 迹ル程ニハ無シ ※『県火山志』・『日本噴火志』
204	寛政4年8月26日 1792年10月11日 桜島 櫻島大正噴火誌 向島炎上、及櫻島嶽噴火 ※『大日本地震史料』は「舊記」として「廿六日向山 炎上、」。『県火山志』によると玉龍山続年代記と桜島上山一藏年代記から
205	寛政5年8月14日 1793年9月18日 大風・奄美大島沖 大島代官記 阿丹崎ヨリ御出帆之處大風吹出行衛不相知、辰十一月廿八日公義ヨリ銘々墓 立イタシ候様被仰渡候事、
206	寛政6年 1794年 桜島 玉龍山續年代記 連年櫻島燃不止四五月ノ頃随風數十里間大ニ灰降ル ※『県火山志』・『日本 噴火志』
207	寛政9年 1797年 桜島 櫻島上山一氏藏年代記 夏…櫻島ハ灰降テ唐芋一圓實成ナク、粟モ實成ナク櫻島許リ飢饉ナルモ外郷 ハ諸作十分ノ年ナリ、 ※『県火山志』・『日本噴火志』。『大日本地震史料』は 「櫻島上山一年代記」として「向島炎上、」
208	寛政11年2月22日 1799年3月27日 桜島 櫻島上山一氏藏年代記 二月二十二日ヨリ嶽少々煙立灰降、後平ニハ多ク灰降りテ麥作痛ム二十六七 日頃ヨリ夥ク響強ク夜晝不止、三月七日ニ至リテ止ム ※『県火山志』・『日本 噴火志』
209	寛政12年11月9日 1800年12月24日 大風？・徳之島 徳之島面縄院 家蔵前録帳 楷船壹艘、井之川湊口ニ而破船ニ及、乗組人数五十人之内五人溺死、残り人 数島次飛船ヲ以琉球江送ル、
210	文化元年3月20/21日 1804年4月29/30日 大雨・種子島 種子嶋家 家譜 大雨損油久村田地五十餘町
211	文化元年5月19日 1804年6月26日 大雨・種子島 種子嶋家家譜 中之村嶋間村安城村安納村古田村大雨フリテ損田畝
212	文化3年7月18日 1806年8月31日 大風・種子島 種子嶋家家譜 中之郡大風倒家九十二区
213	文化7年正月18日 1810年2月21日 降灰？黄砂？・川辺 次渡日帳か 暁より噴火山燃え出で候爲か、降灰ありて世界黄色となる ※『川邊村郷土 誌』
214	文化7年7月26日 1810年8月25日 大風高波・徳之島 徳之島面縄 院家蔵前録帳 申刻ヨリ翌廿七日巳刻マテ大風高波ニテ亀津村海辺家数四十軒余及流失二

	候、右大風口沖永良部〔二而〕福田家本)卸口損舟口(〔替〕〔式〕艘、亀津・面縄両湊ニテ破船イタシ候、
215	文化8年4月4日 1811年5月25日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 洪水壊中之村田地太多
216	文化9年7月11日 1812年8月17日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風平山村安納村現和村國上村島間村古田村増田村住吉村上里村安城村西之村油久村坂井村傷禾且蝗
217	文化10年 1813年 諏訪之瀬島 三國名勝圖會 燃峯 常に火ありて燃ゆ、文化十年、大に燃へ、人民居住を得ずして、他島に移るといふ、※『薩隅日地理纂考』もほぼ同文で「今人家ナシ」と添える
-1	諏訪之瀬島 大森房吉出張復命書 噴火破裂シテ居住ノ民人悉ク他ノ諸島ニ逃レ避ク其後噴煙絶ヘズ因リテ明治十六年頃迄ハ無人島トナル、此ノ噴火ノトキ鎔岩ヲ島ノ南西ナル迫尻(サコジリ)及び水河(スイゴ)方面ニ流出シテ海中ニ突出タシリ、當時新タニ生ジタル噴火口ノ直径ハ「三百メートル」ニ達ス。 ※『日本噴火志』
218	文化10年5月7日 1813年6月5日 津波?・坊泊? 坊津拾遺誌 夜津浪す、坊下浜泊の人家・魚小屋流る、 ※『坊津町郷土誌 上巻』収録の明治16年頃かの剛亭森吉兵衛遺稿から
219	文化11年5月 1814年7月 大風波・徳之島 徳之嶋面縄院家蔵前録帳 大風波ニテ、島中人家其外損物左之通、【異本では「六月十五日…俄ニ津波稠敷打掛、古來無類之大風波、死人流失損物左之通、】 一 死人八人、(内三人島人之内、亅人ハ女、五人神遊丸水主ニテ、本船江乗付居及破船候節相果候、) 一 死牛【馬か】三疋 一 流失家数百七十九軒 一 吹倒シ家数七百八十六軒 一 同九十四軒 御蔵・高蔵・津口番所并弁才天堂・御高札凶リ、 一 流失操舟・板附舟貳十六艘 一 破損操舟・板附舟七艘
220	文化11年7月10日 1814年8月24日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風倒家四十一斃馬一匹傷禾許多
221	文化12年7月4日 1815年8月8日 大風洪水・種子島 種子嶋家家譜 大風洪水田園大損
222	文化14年4月27日 1817年6月11日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 洪水下西之表安城村現和村安納村納官村破田地甚衆
223	文化15年4月・6月 1818年5月・7月 大風・徳之島 徳之嶋面縄院家蔵前録帳 寅四月廿二日夜半ヨリ同廿五日迄大風、面縄居船長久丸砂糖積入半破船、湾屋居船白山丸并安丸同六月四日ヨリ六日迄之大風ニ而破船、
224	文政4年7月30日 1821年8月27日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風大傷禾
225	文政4年12月20日 1822年1月12日 霧島山 國分表締方横目の霧島噴火記 當月二十日朝霧島山北へ有之候中嶽ノ絶頂ヨリ火發候様子ニテ白煙少々相

	立候處、晩方ニ相成黒煙夥敷炎上リ、近邊ノ地迄モ致震動候。只今ニ至リ候テハ漸々相靜候得共、煙ハ止不申候、…、 一昨日贈嶽郡行司山方役共ヲ態々嶽山ヘ差登セ右ノ燃口爲見届候處、中嶽ノ北半七八分目新ニ燃出候口四ヶ所計有之、只今最中燃盛煙夥敷候ニ附、委敷ハ不相知候得共、其間何レモ一町程ツツモ相隔リ候體ニ見及、…、右嶽享保元申年燃出候ヨリ當年迄百六年相成、其時ノ燃跡先年以池ニ相成爲居由候處、此度燃出候場所右ノ側ニ相當リ候附、其邊ヘ自然ト水氣有之、前之通り硫黄氣ノ泥涌出候賦ニ御座候、… ※『大日本地震史料』は今村明恒著の「九州地震帶」からの引用で、『日本噴火志』は「今村理學博士ノ調査ニヨル」とする。長文のため抜粋。
226	文政6年 1823年 洪水・大島 大島代官記 西間切・東間切洪水岩崩有之、田畑過分破損相成
227	文政7年12月3日 1825年1月21日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風洪水荃永村岸崩【三名説明省略】壓死締方横目【氏名省略】至荃永村檢視尸告于官
228	文政10年11月3日 1827年12月20日 旋風・種子島 種子嶋家家譜 坂井村柁瀉塩戸旋風大起壞塩屋煽火人家盡焼亡揚漁舟于空中或落水中或落石上或破或損皆云潜龍起人馬手札等無恙事聞于官
229	文政11年8月9日 1828年9月17日 旋風・種子島 種子嶋家家譜 夜亥刻◎【つむじ：颯の票が火三つ】風一條（廣可三十丈）起自現和村大峰向東北吹去壞す本立人家出于菖蒲平向北過國上村ノ寺之門到奥轉折過大原出于海其所觸巖崩峰割樹木無大小折摧揚巨松牽數町外況於人屋乎國上村倒家十三觸損者不知數就中河内勘左衛門家倒勘左衛門及外孫河内嘉平太女子爲材所壓即死嘉平太妻得鄰人之救纔免死（後經二十八日竟死）然火起瞬息中盡焼亡二人骸亦爲灰又百姓新次郎家倒其妻壓死締方横目【四名氏名省略】檢察之事聞于 官
-1	長島 長島町郷土史 本文：大暴風雨，年表：大暴風
230	文政12年5月13日 1829年6月14日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 中之村田地爲洪水破壊由
231	文政13年4月26日 1830年6月16日 大風洪水・肝属 守屋舎人日帳 大風洪水ニ而、諸所少々宛之破損有之候、然共諸作職痛相少と之取沙汰ニ而□（候力）、尤□（水力）勢六尺計相増候得者、屋治土越を越程ニ有之候事
-1	文政13年4月27日 1830年6月17日 大風大雨・種子島 種子嶋家家譜 大風大雨大壞田地
232	文政13年5月2日 1830年6月22日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 増田村納官村野間村油久村各告洪水大壞田地
233	文政13年7月8日 1830年8月25日 大風洪水・肝属 守屋舎人日帳 大風洪水ニ而候得共、諸作職等痛相少候、尤波見浦ニ而破船有之、死人八人之由承候事
234	文政13年7月11日 1830年8月28日 大風・奄美大島 大島代官記 大熊湊御出帆、翌十二日大風ニテ三艘共朝鮮國ヘ漂着、九月肥前之内、田助ヘ着之由、尤寅年五月ヨリ七月迄大 風三度、小大風二度、都合五度之大風、卯年砂糖・唐芋凶作、 …此御代寅五月ヨリ七月迄五度大風、黍・唐芋大痛、翌卯春大凶作唐芋切り、

235	文政13年7月26日 1830年9月12日 大風高波・徳之島 徳之島面縄院家蔵前録帳 天保元年辛卯(ママ)七月廿六日ヨリ同廿八日マテ、丑・寅・卯・辰 之方ヨリ大風・津浪二而、亀津村濱辺人家三十軒流失又ハ致破損候、
236	文政13年9月6日 1830年10月22日 大雨・種子島 種子嶋家家譜 大雨傷安城村住吉村田地
237	天保2年5月5日 1831年6月14日 大雨土砂崩れ・種子島 種子嶋家家譜 自昨夜至今朝大二雨フル平山村農夫仙七女幼稚喪父母長於親族庄市家今朝為雨山崩壊シ家壓シ梁而死
238	天保3年3月20日 1832年4月20日 霧島山 大日本地震史料 霧島山噴火す、※「霧島の研究」からで「天保炎上、天保三年三月二十日、」
239	天保3年 1832年 大風波・徳之島 徳之嶋面縄院家蔵前録帳 夜ヨリ翌十一日昼時分迄近年稀成大風波二而、島中黍作其外諸作物相痛、死人・死牛馬・軽我人等有之、津口番所又ハ繰舟流失人家砂糖木屋数百軒吹タヲシ、其外損物過分ニ及候ニ付、
-1	天保3年9月11日 1832年10月4日 大風・奄美大島 大島代官記 稀成非常之大風諸作大痛
-2	大風・種子島 種子嶋家家譜 大風一島傷田園不可勝算城内及船手等多破損其餘倒家九十軒餘
240	天保4年5月9日 1833年6月26日 洪水・鹿児島 鎌田正純日記 水ニかし家二ヶ所流候、新上橋・西田橋・武橋も流候、※『鹿児島県史料』
-1	洪水・都城 年代実録 大雨満水諸所破損安永渡り土手高二間三合根廻り十二間流八十間破損
241	天保4年5月14日 1833年7月1日 大雨・種子島 種子嶋家家譜 大雨油久村増田村安城村島間村田地大壊
242	天保4年5月28日 1833年7月15日 洪水・鹿児島 鎌田正純日記 今日四ツ後より大鐘時分まで大水出ル、九日之水二一寸計少く候、千石ばゞ方は八寸計多く出候由、よく朝迄掛ひる、下人仁十夜入前より相見得す候処、よく朝日置氏かど江流居候事 ※『鹿児島県史料』
-1	洪水・都城 年代実録 五月廿八日同廿九日諸所大雨満水ニ付破損横市村勘貫井手頭財部境ヨリ加治屋下迄本川流通ル其外諸所大破ニ付御頼郡奉行大野清右エ門殿高岡表ヨリ帰ニ付御頼ノ上内見分親實隨身
243	天保4年8月20日 1833年10月3日 大雨・種子島 種子嶋家家譜 大雨フリ洪水西之表村現和村安城村野間村荃永村平山村坂井村増田村納官村島間村傷田園不可勝算随其損減賦税有差
244	天保5年3月10日 1834年4月18日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 夜洪水現和村住吉村傷田地
245	天保5年5月21日 1834年6月27日 大雨・種子島 種子嶋家家譜 大雨フル傷吉田村安城村田地
246	天保6年5月14日 1835年6月9日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風本源寺境内墓所松倒古田村國上村安城村多損禾國上村湊塩戸善次郎者刈秣帰路松倒所ニテ壓死締方横目【四名氏名省略】検見之事聞于 官

247	天保6年閏7月21日 1835年9月13日 大風・鹿児島 鎌田正純日記 昨夜四ツ時分より雨風二而、今朝二至り前代未聞程之大風二而、御城山松井二世間人家吹伏候数幾指と不相知候、九ツ比より少は吹止候、少々は終日吹通し二而候事、珍敷事故記也、今日之風二御先祖堂吹くや(壊)し候、其外少々ツハは所々くへ(壊)候、植木も多く吹たほし候事 ※『鹿児島県史料』
-1	大風・都城 年代実録 廿日夜ヨリ翌廿一日八ツ時分迄大風親寶温泉中壬七月廿日ハ二百二十日也近年珍敷大風
-2	洪水・川辺 次渡日帳か 暁の大風…浸水家屋多く舟にて救助を出せし由なる ※『川邊村郷土誌』
248	天保7年7月7日 1836年8月18日 大風雨・種子島 種子嶋家家譜 西風大吹雨又甚一島五穀大損
-1	強風雨洪水・肝属 守屋十郎太略日記 風雨強ク、麓公(小)路江水相上り候、左候へ共〇(〇屋地)戸越へノ儀者水こし候様二者無之候、拙宅城戸橋際まで水上り、石橋ハ未不越候、染(紺)屋馬場辺ハ格別水ふりき由承候
249	天保9年閏4月17日 1838年6月9日 洪水・串木野 横目御用向覚留 大雨二付早速より役々行廻精々水除等為仕候得共莫太之洪水二而所中諸所及破損申候往還筋破損
-1	洪水・鹿児島 鎌田正純日記 今朝四ツ時分より九ツ八ツ時分迄之間大水出、書院ゆかの下杯一寸計もすき候半、内へあがらざる計二而候、御隠居へは内へ少々上り候、前代未聞珍敷洪水故留置もの也、右洪水八ツ前後より少々引、暮時分ニは大形引候へとも、未田之辺は都而不引取候事 ※『鹿児島県史料』
250	天保11年3月22日 1840年4月24日 竜巻・霧島 年代萬古案記 大雨降り出、口圖之如く氷交り、何風とも不相分、殊之外強く候得共、暫く之間にて、四ツ時分ニ相成候処、天気ニ相成、九ツ時分ニ相成晴天相成、然処踊下中津川塩瀬江辻巻二而人家数軒吹倒、怪我人等有之、其外諸所霧嶋迄横壺町計道立坊中ハ勿論花林寺本門・鐘堂吹倒、其外相損、怪我人僧壺人、囲爐裏之内押付られ難渋之由、區々評判有之候、然共御宮江者木之葉も落不申等之評はん承事、珍事記置、【略】重富之人とて百姓躰之者、家倒掛致焼死候者有之、【略】右焼死いたし候者、城瀬之善次郎と申者二而、誠不便成事之由承、荒増記置、右逆風二而も候哉、御当地矢来御門吹倒候由、一於峯様御事、四月四日霧嶋御参詣二付、御供被仰付候、逆風之跡致見物候処、音に聞候よりも大損二而、完音堂脇之大木根より一起二倒れ、前代未聞故記置也、
251	天保11年7月17日 1840年8月14日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風國上村増田村坂井村荃永村西之表村損田地
252	天保11年8月2日 1840年8月28日 洪水・肝属 守屋舎人日帳 洪水屋治土手三尺残候由 床之下水通候由承候事
-1	洪水・鹿児島 鎌田正純日記 今日は洪水二而通路不自由故、別勤之筋頼遣出勤不致候也
-2	洪水・都城 年代実録 同二日朝無類ノ洪水竹ノ下大橋東ノ方二間斗水揚ル西ノ方橋口洗切至テ危有之由十三年跡子年洪水ヨリ水増候由西口番処ノ下ヨリ押切ノ前田地松元ノ下片平ノ下マテー面ニ湖ノ如ク成新町エハ船ニテ通融新馬場都テ水揚リ

	同三日ノ夜又々大風七ツ時分辰巳ニテ吹同四日ノ夜中珍敷大西風不吹又々洪水二日朝程ニハ無之此節毎々ノ大風強無之候得共時節柄稻ノ出穂前ニテ揚田多シ損高八千石余永損当損上見ニ付御藏現米九百三石御私領現米三百石余給地現米貳百石余
253	天保11年9月8日 1840年10月3日 洪水・肝属 守屋舎人日帳 無類之供【×洪】水ニ而、屋治土手半分切候、尤山塩と申者□□□□(ニ而候哉力)、波見牟礼山九合目より下迄ずり、其外波見中江も数ヶ所ずゞり(ママ)□(浦力)七人在ニ八人死人有之候事
254	天保12年4月3日 1841年5月23日 口永良部島 大日本地震史料 口永良部島噴火、八月ニ至リ大爆発ヲナシ、西麓ノ村落ニ多大ノ被害ヲ生ゼリ、※田中館秀三著[Volcanic Activity in Japan]から一節を引用
255	天保12年5月10日 1841年6月28日 洪水・鹿児島 鎌田正純日記 今日大雷鳴ニ而、七ツ時分六尺余之洪水出ル ※『鹿児島県史料』
-1	天保12年5月11日 1841年6月29日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 洪水下之郡破田地
256	天保12年5月18日 1841年7月6日 洪水・鹿児島 鎌田正純日記 六尺位之洪水出ル ※『鹿児島県史料』
-1	大風・重富 年代萬古案記 大風ニ而近年珍敷御屋敷破損所多く、田舎作職ニ付而者、多くハ大痛ミ、都而風口ハ吹切時ならん風ニ而、其外ハ痛ミ無之、國分杯者毛頭無之と承事、
-2	洪水・都城 年代実録 十七日七ツ時分ヨリ北東風大風雨翌十八日朝静ニ相成去子ノ年ノ川三尺斗減ル程ノ洪水ニテ諸所川筋大破
257	天保12年6月15日 1841年8月1日 口永良部島 金峰神社御縁起考 嶽山俄に鳴動し噴火炎煙天を焦し、城東の村落盡く焼亡死者多かりしにより直に轉住せしなり。 これより先(年暦不明)冬十一月十二日噴火砂石を降下し、(年暦不明)二月二日同じく噴火また(年暦不明)六月二日噴火焦煙天を焼き全村焼亡かく數回の噴火ありしよりは今に至るまでさしたる噴火なかりしなり。権中講義平朝臣鮫島宗包 ※『県災異誌』
258	天保12年7月10日 1841年8月26日 洪水・鹿児島 鎌田正純日記 今朝大洪水ニ而小座雨打迄水先参、 ※『鹿児島県史料』
-1	常不止集 昨日大水ニ付たんとふの辺洗崩し候ニ付、見物としてさよみ坂迄行掛候得ハ、今朝も大水ニ而不被行、引返し葛原橋之様参候得ハ、二王堂馬場大水、雖然踏通候得ハもゝにかゝる、左候而、坊中馬場踏通大乘院橋江参候へハ、猪飼家角物見下石垣纔二尺位すく、夫より諏訪の鳥居へ出て上馬場筋、直ニ歸る、四ツ時出勤、八ツ後退城、戸柱墓より拙家墓江参、華舜軒江参り、馬つなき馬場方江行かゝり候得ハ、未大水難被通、又々黒門江廻り候而歸ル、先日之水に新上橋・武之橋橋柱洗流し、当分迄も舟渡之よし、 ※『鹿児島県史料』
-2	年代実録 鹿児島加治木大水西田町軒一尺斗ノ所マテ水揚り候由其外日置伊集院永吉利谷山市木方限大水ノ由

259	天保13年5月17日 1842年6月25日 洪水・鹿児島 鎌田正純日記 今日大洪水ニ而九ツ時分満水書院縁頼上り立一番高キ石之上を壺部位水越候程之洪水ニ而、暮時分迄も半は水不引候事
-1	常不止集 九ツ過大洪水之由ニ付さよミ坂よりつゝら原橋・戸柱橋・抱新橋江見物ニ参、今日者大洪水ニ而西田橋丁門番所洗流し候也、外ニも段々けが人・相損候場所も過分有之由なり、未委細不承、下ハ千石馬場梅田家角迄参、諏訪家前迄舟通候由也、上も清水馬場より押廻し、諏訪馬場一盃ニ水洗行也、
-2	洪水・重富 年代萬古案記 水車田一流、永作東下打切破損ニ相成、其外痛所多、諸郷々同断、御当地水上り、西田橋口大門倒、
260	天保14年5月18日 1843年6月15日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 増田村洪水大損田地
261	天保14年夏 1843年夏 洪水・伊佐大口 湊辺の有村国盛の石垣の石碑 大水旧堤古堰盡崩壊
262	弘化2年5月19日 1845年6月23日 大風高波・徳之島 徳之島面縄院家蔵前録帳 大風浪ニ而御代官様・御附役様御乗船宝来丸湊内ニ而沈ミ、御横目様御乗船虎柳丸破船、宝来丸ニハ積入砂糖取揚候処、本之通浮揚候
-1	弘化2年5月20日 1845年6月24日 洪水・都城 年代実録 十九日夜半ヨリ辰巳ニテ大風雨翌廿日迄夜入時静ニ相成候トモ翌廿一日ヨリ終夜大雨満水
-2	洪水・鹿児島 鎌田正純日記 夜前より風雨、夕方洪水四尺内外 【翌21日：暮時分より洪水五尺余】
-3	岩瀬之玉 烈風故処々雨戸はめ候、其外崩家故もり強く、畳はき雨もりすけとふにて大騒働いたし候、
263	～弘化2年6月3日～ ～1845年7月7日～ 大風・徳之島 徳之島面縄院家蔵前録帳 已五月十九日并同六月二日ヨリ三日マテ、同七月廿六日ヨリ廿七日マテ、右三度之大風ニ而、稲作ハ勿論唐芋其外之作物都而相痛、凶作之事、
-1	弘化2年6月3日 1845年7月7日 洪水・鹿児島 鎌田正純日記 夜前より風雨、夕方洪水四尺内外 【翌21日：暮時分より洪水五尺余】
-2	弘化2年6月4日 1845年7月8日 洪水・鹿児島 岩瀬之玉 今夜八ツ時より甲突川者大洪水ニ而有之たるよし、大抵【ノ木偏】八尺余といふ水のよし、新上橋・西田橋・武橋者崩れ候よし、鹿児島二者あまり不降候得共川上降候哉、又者山塩ならんとの評判ニ候、新上橋近々目鏡橋ニ相成候筈、石漕舟数艘新上橋辺ニ有之候を洗流し、橋ニかゝり候而崩れ候も為有之よし、
264	弘化3年7月17日 1846年9月7日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風城内及城外破損島中倒家甚多
-1	大風・肝属 守屋舎人日帳 大風ニ付、社地杵【杉】木五、六本吹倒候
265	弘化4年6月24日 1847年8月4日 大風雨・種子島 種子嶋家家譜 大風傷稼倒屋(米穀千二百四十三斛餘砂糖三万斤頽屋百八軒)

-1	大風雨・鹿児島 鎌田正純日記 大風雨、 夕方洪水、 終日之大風雨ニ付屋敷中諸々破損所等有之候事、 但夜前より吹通朝五ツ時分より追々強、暮前漸相和キ候事
-2	大風・川辺 次渡日帳か 初め二十二日辰巳の強風より二十三日には猶強く廿四日益強風となり家屋樹木の倒れたる者多く、 ※『川邊村郷土誌』
-3	大風・重富ほか 年代萬古案記 廿三日晚ヨリ風、廿四日大風、同日晩和キ、御屋敷吹立都而相損、其外諸所破損所有之、重富も同断、然共作職ニ付而者折宜餘り痛ミ無之、他郷ニ而者別而痛ミ強キ所も有之、近郷加治木杯ニ而者凡三百軒餘倒家有之由、
266	嘉永元年 8月9日 1848年 9月18日 大風高波・徳之島 徳之島面縄院家蔵前録帳 夜半時分ヨリ、巳ノ方ヨリ大風吹出シ、諸作物夥敷相痛、人家等三間切毎村ニ吹倒吹◎【「別」に似て偏は「巳」の下に「力」で旁はリットウ】(本ノマ、剥力)過分有之候、尤右大風波ニ而同十日之夜、阿布木名村下干瀬江琉球登観宝丸二十三反帆壹艘、砂糖貳拾万斤余其外反物并琉球製品物、過分積入居候由候処破船ニ而、品物少々ハ取揚候得共過半流失ニ及候由、
267	嘉永3年 6月12日 1850年 7月20日 大風高波・徳之島 徳之島面縄院家蔵前録帳 朝五ツ時分ヨリ大波ニ而、風寅卯之方ヨリ吹出シ、七ツ時分辰巳之方江吹廻シ大風相成、沖永良部島ヨリ大和船江卸替、御米亀津江積渡居候処、番所之前濱江挽卸(打揚)ケ、同月廿六日川中迄挽卸、
268	嘉永3年 8月7日 1850年 9月12日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風米倉小拂所一軒枅取居宅一軒會所一軒現和村人家五十四軒梵宇一軒國上村五十八軒住吉村五軒安納村三十一軒上西之表二十五軒中西之表五軒安城村三十八軒古田村十一軒荃永村四十九軒下中之村四十一軒増田村六十三軒油久村二十五軒野間村五十軒府本十四軒上中之村三十五軒上里村四軒島間村二十七軒西之村三十軒坂井村六十二軒平山村四十五軒納官村十四軒皆頽焉通計七百三十二軒
-1	大風・枕崎沖? 種子嶋家家譜 九日破船一艘漂來於島間浦締方横目【二氏名省略】及吾横目(遺【×逸?】姓名)往檢察之召船子問以船主與船子之死生日船主為加籠枕崎丸田屋主人而溺死者十四人【名省略】是也而得活者則我輩六人耳【名省略】是也聞狀于官
-2	大風・肝属 守屋舎人日帳 倒家、倒木等急二者数不相知、無類之大風ニ而候事
-3	大風・加治木ほか 新納仲左衛門日記 朝五ツ時分風吹出し、九ツハツ之間大風と相成、御家廻諸所破損、七ツ過ニ吹止候、伊敷邊ニ死人為有之由、
-4	大風・重富 年代萬古案記 大風、北風ニ而、西ニ直し強く、田舎杯者都而西風ニ痛ミ強く、田杯ハ生れ揃居、差而之事も無之相見得候へ共、取実不致、
269	嘉永4年 9月22日 1851年 10月16日 洪水・徳之島 徳之島面縄院家蔵前録帳 朝ヨリ雨降出シ候処、弥増大雨ニ而、暮六ツヨリ大供(マ、洪力)水イタシ、三間切村々田畠等洗込且崩損有之、将又右供(ママ)水ニ而亀津江親子四人居木

	屋共流失ニ及候、
270	嘉永4年9月27日 1851年10月21日 大風・徳之島 徳之島面縄院家蔵前録帳 夜入五ツ時分、南ヨリ大風俄ニ吹出、半時ニモ不致内大雨ニ而西江吹廻返シ、風ハ別而強ク是モ一時之大風ニ而候得共島中家吹剝過半有之、湾屋湊江沖永良部島下リ詰役様御借船之由、米・大豆其外之品物積入汐繫之处、南干瀬江打揚及破船、乗組七人上陸候、
271	嘉永4年10月1日 1851年10月25日 洪水・徳之島 徳之島面縄院家蔵前録帳 大供水ニ而、去ル廿二日同様之供水ニマヽ而候、
272	嘉永5年9月7日 1852年10月19日 大風高波・徳之島 徳之島面縄家蔵前録帳 九月七日ヨリ翌八日マテ大波立ニ而、諸田辺ヨリ手々辺マテ磯辺諸作物ハ勿論人家過半相痛候、
273	嘉永5年9月11日 1852年10月23日 洪水・種子島 種子嶋家家譜 洪水稲之刈而未収者許多流失時定秋税ノ額
274	嘉永7年11月 1854年12月 地震・西日本 徳之嶋面縄院家蔵前録帳 四日・五日ヨリ日本国一統大地震ニテ、場所ニヨリ七日内外十日餘モ時々振動相發、鹿兒島ニハ五日朝特殊之外相震ヒ、夫ヨリ四・五日ハ時々震動イタシ、併家作等震ヒ崩シ候丈ニハ無之、加治木ヨリ国分其外都之城辺關外等ハ、家作等ユリ崩シ候場所多々有之
-1	嘉永7年11月5日 1854年12月24日 地震・肝属 守屋舎人日帳 七ツ半大地震ニ而、段々倒家等有之候事
-2	地震・加治木 新納仲左衛門日記 ハツ後ヨリ…乗馬…、乗方相濟、…、折から俄ニ大地ゆり出シ、是ハ不思議ト いふ内、直ニ其座側ヨリ地響さ け候ニ付、各々四方八方へ散乱いたし候、海 辺ハ潮泥ふき揚、誠ニ近代未曾有之珍事也、直ニ皆 ヲ々罷歸候、(島津久徳夫人)家内ニモ何 そ相違無之、馬繫キ置、新六殿同道御屋敷江御機嫌窺申上候処、文清院 様・御子様方ニモ納殿庭江被遊御出候ニ付、御直ニ御機嫌窺申上、先ハ御無 難ヲ奉祝候、奥御殿 壁落去り候ニ付、直ニ拝見いたし候様致承知、罷出候 処、誠ニ驚入次第ニ而、壁も不損所ハなき 様相見得候、御近習役邦永仲之 進殿も罷出候ニ付、御小納戸之内ヨリ直ニ鹿府江、旦那様御方江 御左右申上 候様申聞候処、法元仲蔵差越候段承候、 今晚二度之地震いたし、昼之地震ヨリ八九度ニ及候、各火共明かし、蠟燭用意 共いたし、直ニ庭 江飛出、格護共いたし居候得共、昼程大きなるのハ無之 候、 (厩欄記事)「日入前ヨリ大地震、夜ニかけ十度はかりもゆり候得共、初の地しん 程ハ無之候、」
275	安政2年5月15日 1855年6月28日 洪水・鹿兒島 鎌田正純日記 今日四ツハツ出勤、洪水ニ付川外御暇ニ而九ツ半比退出、新上橋通無之西田橋より船ニ而帰宅いたし候事
276	安政2年5月18日 1855年6月31日 大雨洪水・種子島 種子嶋家家譜 大雨洪水上中之村下中之村島間村荃永村損田地且峯崩而壓假屋及池亀新蔵者宅人馬無恙

277	安政2年7月13日 1855年8月25日 大風雨・種子島 種子嶋家家譜 大風雨損溝洫(みぞ)
278	安政2年12月15日 1856年1月22日 大風・種子島 種子嶋家家譜 大風西街市人濱田喜八商船破壊于前港
279	安政4年4月25日 1857年5月18日 大風高波・徳之島 徳之島面縄 家蔵前録帳 夜南風江為替之砌、右三艘之内圓通丸ニハ湊北之干瀬へ打揚、金山丸無形 モ、盛恵丸ニハ湊内へ沈ミ、
280	安政4年7月29日 1857年9月17日 大旋風・種子島 種子嶋家家譜 大颶(つむじ)在港諸船皆覆没陸上所置八幡丸掀舞數仞而敗壊倒屋傷稼其餘 石裂木拔者不可枚挙
281	安政6年5月11日 1859年6月11日 大雨・種子島 種子嶋家家譜 自昨九日大雨鷗川有水橋壊其他上中西之表及住吉村各有水害多損田地
282	万延元年 1860年 桜島 日本災異志 大隅桜島嶽噴火 ※『名勝圖會』に「桜島火を安永八年に發す、爾後今に至て 五十年、猶煙霧を帶ぶ、」。『襲山考』にもほぼ同文で「五十年ニ剩ル」とあり活 動が継続か。なお、『櫻島大正噴火誌』等は万延元年の噴火を二月とする。
283	文久3年7月19日 1863年9月1日 土石流・国分 邦永仲之進日記 (昨夜)之大雨ニ而、曾於郡清水国分邊、山潮出田地大破、死人死牛馬等数 多有之由 ※『始良市誌史料 八』
284	元治2年閏5月2日 1865年6月24日 大雨洪水・谷山 名越高朗日記 大雨ニ而洪水也 五ツ半時分より飯屋江出勤九ツ時分飯宅ニ而直ニ 惣福之 前田池江差越洪水防方いたし七ツ過飯リタ方 又々大降ニ而田地江差越夜 半まで水防方漸々防止候而飯宅
285	元治2年6月4日 1865年7月26日 大雨洪水・谷山 名越高朗日記 夜半之大雨ニ而洪水諸所田地江砂入有之
286	慶応2年5月14日 1866年6月26日 大雨洪水・谷山 名越高朗日記 九ツ時分飯り直ニ 上福元村井中塩屋田地砂入為見分差越屋過飯宅
287	慶応2年5月25日 1866年7月7日 大雨洪水・川辺 次渡日帳か 廿五日は九ツ時分より強雨降り續き七ツ時分より大洪水となり、廿六日迄雨天 にて住家に水上り 田地砂入洗剥 五十九町三反二畝廿七步 畠作二分通被害 流家一軒 橋一個所 落井手 九個所 土手流れ 五十七間 川隈流れ 六百十間程 溺死一人 是れは松崎川にて、今田村園田屋敷の名頭善右衛門三男 八太郎にて當年二十歳 ※『川邊村郷土誌』
288	慶応2年6月29日 1866年8月9日 大雨風・種子島 種子嶋家家譜 大雨風此夕夷舶破壊于竹崎小島免者僅三人(中一人黒夷)
289	慶応3年5月23日 1867年6月25日 大雨洪水・蒲生 蒲生郷組頭所 日記 四ツ半時分ヨリ大雨降出し、八ツ時分ニ相成候処、山岳共崩、未曾有之大洪

	水、夫故川端勿論水ニ浸り、且田畠大分之痛ミニ候得共、未如何程之損亡不相分事ニ候、… 西浦之内小川内居住衆中大脇新七并ニ田代助右衛門姉・同助右衛門二男助次郎、後之山崩流出し埋死之披露、親類共ヨリ申出候、并川崎龍助下人四人、右同断埋死之披露申出候…
-1	大雨洪水・加治木 邦永仲之進日記 加治木洪水、網掛橋流失、同橋東河岸人家有馬善左衛門・川畑惣左衛門・原口藤右衛門跡・濱川甚右衛門跡・中馬平右衛門・佐藤宇兵衛跡都而流失、御船手御家廻り半方流失いたし候段申出、詰合中皆驚愕いたし候、【中略】兩人より申上候趣ハ、昨廿三日四時分ヨリ雨大降ニ而、九時分ヨリ河水殊之外増長仕、八ツ過尤盛ん相成、七時分ヨリ追々減水、七半比兎哉角水中を彼ト此ト行通ひ候様相成候、満水之時者、ゴードの瀧之水河道を離れ、安国寺前へ打出シ、吉原前後一面之海之如く相成、龍門瀧之水椿窓寺後へ打出シ、春日前を過、反土井出川と合し、上木田前実窓寺川原より小鳥後迄一面之海之ごとく相成、春日前太鼓橋・網掛橋・日木山川太鼓橋皆落、能仁寺橋ハ無事、人家ハ奈良木川春日前邊四五軒流失、網掛橋東河岸七八軒御船手迄流失仕候、水減シ候処安国寺前上木田前より小鳥後迄、新田内都而土砂洗込瀉濱之ことく相成候、其餘破損所未審候、満水之時田中門之者共いづれも屋上ニ上り、助給へ助給へと呼ぶ聲中々聞ニ不忍候へ共、船をこき寄候へハ逆まく水に押落され寄付かたく、中洲邊までハ船を遣し人をのせ相助け候得共、田中門へハ不相叶、眼前二人を見殺するハ誠ニ不便也と申合ひ候得共、致方無之处、漸々減水相成、辛らふして何れも命はかりハ相助り候との趣、聞ニ堪かね候事共細々兩人より申達、やかて御暇いたし罷帰候、 一加治木洪水ニ付、 - 一溺死五人 - 一同牛七疋 - 一同馬三疋 - 一倒家五拾八軒 - 内三拾七軒 居家 - 拾七軒 流失 - 拾五軒 馬小屋 - 三軒 流失 - 五軒 土蔵 流失 - 壺軒 板蔵 流失 右之通、披露書加治木ヨリ到来いたし候、 加治木中凡田地百九拾六町餘、高三千七百五拾石餘有之、濱之新田・山野請代等之地方ハ此外ニ而有之候 夫数三十四万四千弍百拾六人、石切賃錢四千百弍貫五百九拾文ニ相及、